



平成25年度行政経営分析結果 ～講座事業～

小牧市

目次

| | | |
|-----|---------------------|----------|
| I | 分析の目的・考え方 | ・・・ P 3 |
| II | 現状整理 | ・・・ P 7 |
| III | 講座全般の分析 | ・・・ P 17 |
| | 1. 市民一人あたりの講座にかかる経費 | ・・・ P 18 |
| | 2. 開催期間 | ・・・ P 19 |
| | 3. 講座の分類化 | ・・・ P 21 |
| | 4. 講座・講師等の選定方法 | ・・・ P 23 |
| | 5. 他部署との重複 | ・・・ P 24 |
| | 6. 受講率 | ・・・ P 28 |
| | 7. 受講者の特性 | ・・・ P 30 |
| | 8. 受講料 | ・・・ P 35 |
| | 9. 市民へのPR方法 | ・・・ P 38 |
| | 10. 課題と改善の方向性 | ・・・ P 40 |
| IV | 個別課題及び個別講座の分析 | ・・・ P 44 |
| | 1. 寿学園 | ・・・ P 45 |
| | 2. 市民大学こまきみらい塾 | ・・・ P 61 |
| | 3. 個別講座 | ・・・ P 73 |
| V | 経営分析結果の活用 | ・・・ P 89 |

I 分析の目的・考え方

分析の目的

- これまでの行政評価システムでは、一枚の評価シートにより各事務事業を評価するため、事業の分析が十分なされないことがあった。事務事業のより有効な改善を行うためには、客観的かつ具体的に現状を把握、分析し、その解決策などを可視化することが必要である。
- これらのことから、平成24年度から民間企業の手法を取り入れ、市民から見た大きな事業の単位を一つの事業ユニットにとらえ、分析を行う経営分析を導入した。

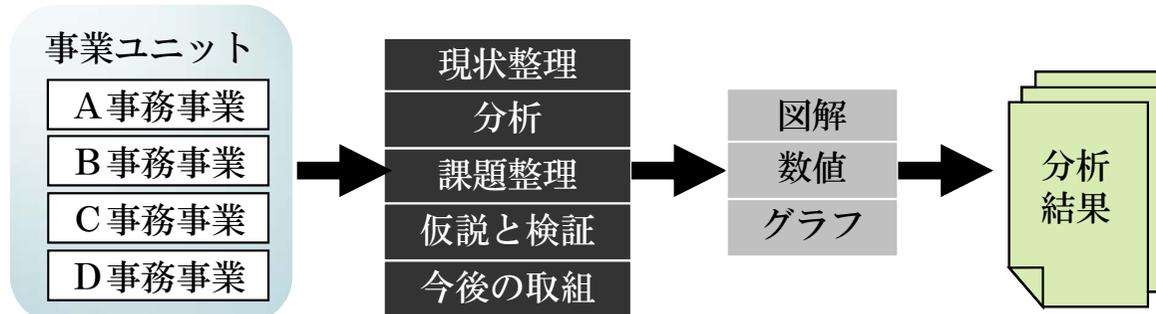
これまで



分析が足りないのでは。1事業ごとの評価で、他の事業との関連がわからない。



経営分析



テーマも分かりやすいし、分析結果も読みやすい。



分析対象事業ユニット「講座事業」の選定

- 各種講座（講座、教室、講演会、セミナー等）については、教育委員会をはじめ各部署が、毎年度、数多く実施しているが、目的が異なるものの内容・対象者などが類似する講座や民間と競合する講座等が見受けられるため、市が実施している講座を整理する中で、各講座開催の必要性や効果を確認する必要がある。
- また、各講座の経費や受益者負担等を比較することにより、各講座の適正化を図り、効率的な業務体制に改善することを目的として、「**講座事業**」を選定することとした。

対象

講座、教室、講演会、セミナー等（18課、182講座）

対象外

職員のみを対象とするもの、イベントにおける出展、出前講座、放課後子ども教室、日本語初期教室、適応指導教室、説明会、タウンミーティング、市民病院・児童館が実施しているもの、外郭団体・指定管理者が自主的に実施しているもの

分析の方法

市政戦略課が講座等の担当部局と連携を図りつつ、次のとおり実施した。

分析の流れ

現状整理

- 平成24年度に実施した講座事業に関する情報を収集・整理
- 必要に応じて担当課ヒアリングを実施
- 「第3次小牧市生涯学習推進計画」及び平成23年11月に実施した「生涯学習に関する市民アンケート」の確認
- 県内市及び類似都市の実施状況を調査・ベンチマーク分析

分析・課題の抽出 (講座全般)

- 講座全体について、9項目（市民一人あたりの講座経費、開始時期、講座・講師の選定方法、講座の分類化、他部署と重複状況、受講率、受講者、受講料、市民へのPR方法）の分析、市の投入金額等を「見える化」

分析・課題の抽出 (個別課題)

- 「必要性・有効性・効率性」の視点に基づき、現状整理の段階で分析の必要性が低い講座を除いた165講座の課題を洗い出し
- 課題の大きい講座（寿学園、こまきみらい塾）の詳細分析

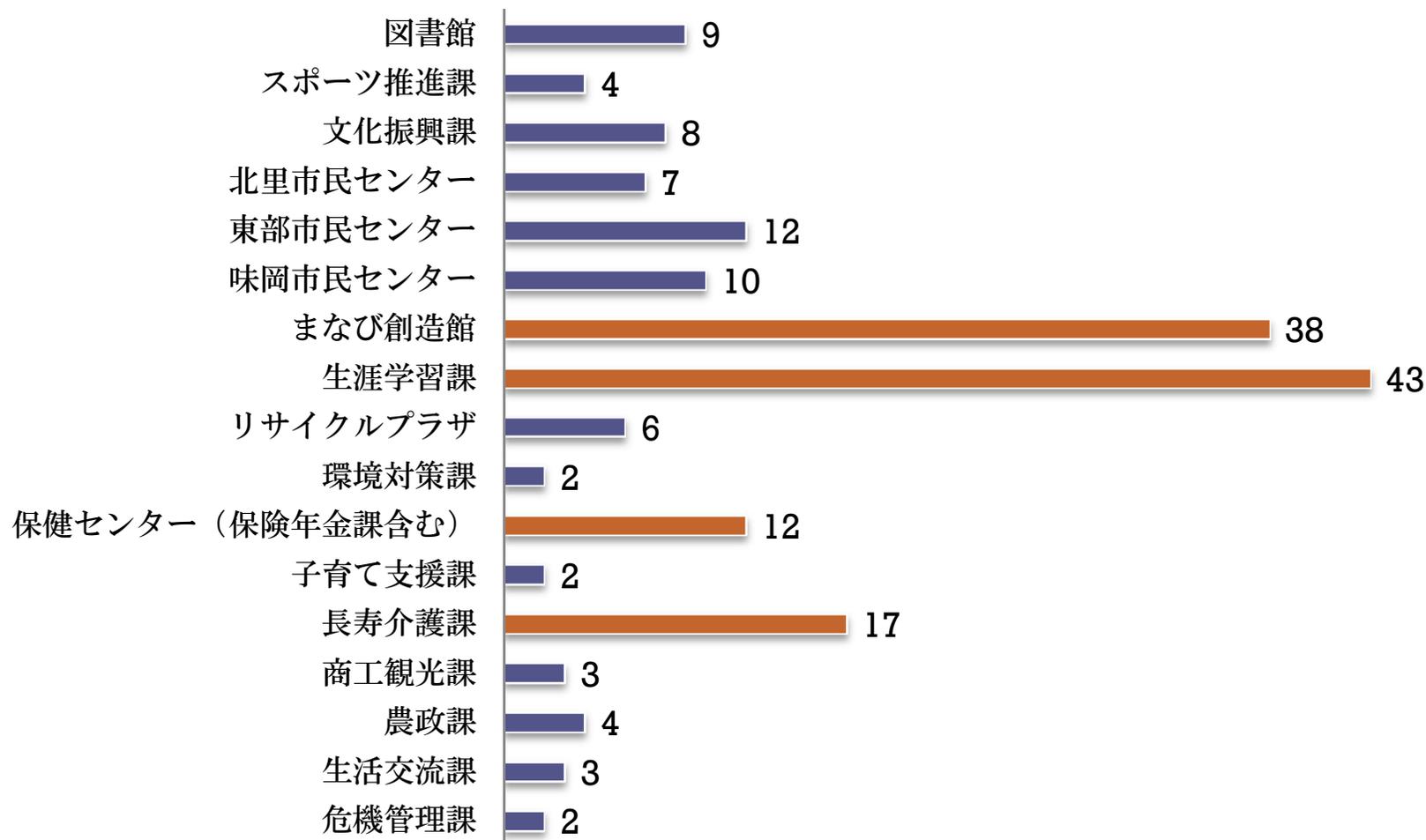
改善の方向性の提案

- 各課題に対する検討を行う主管課と改善の方向性を提案

II 現状整理

講座開催数

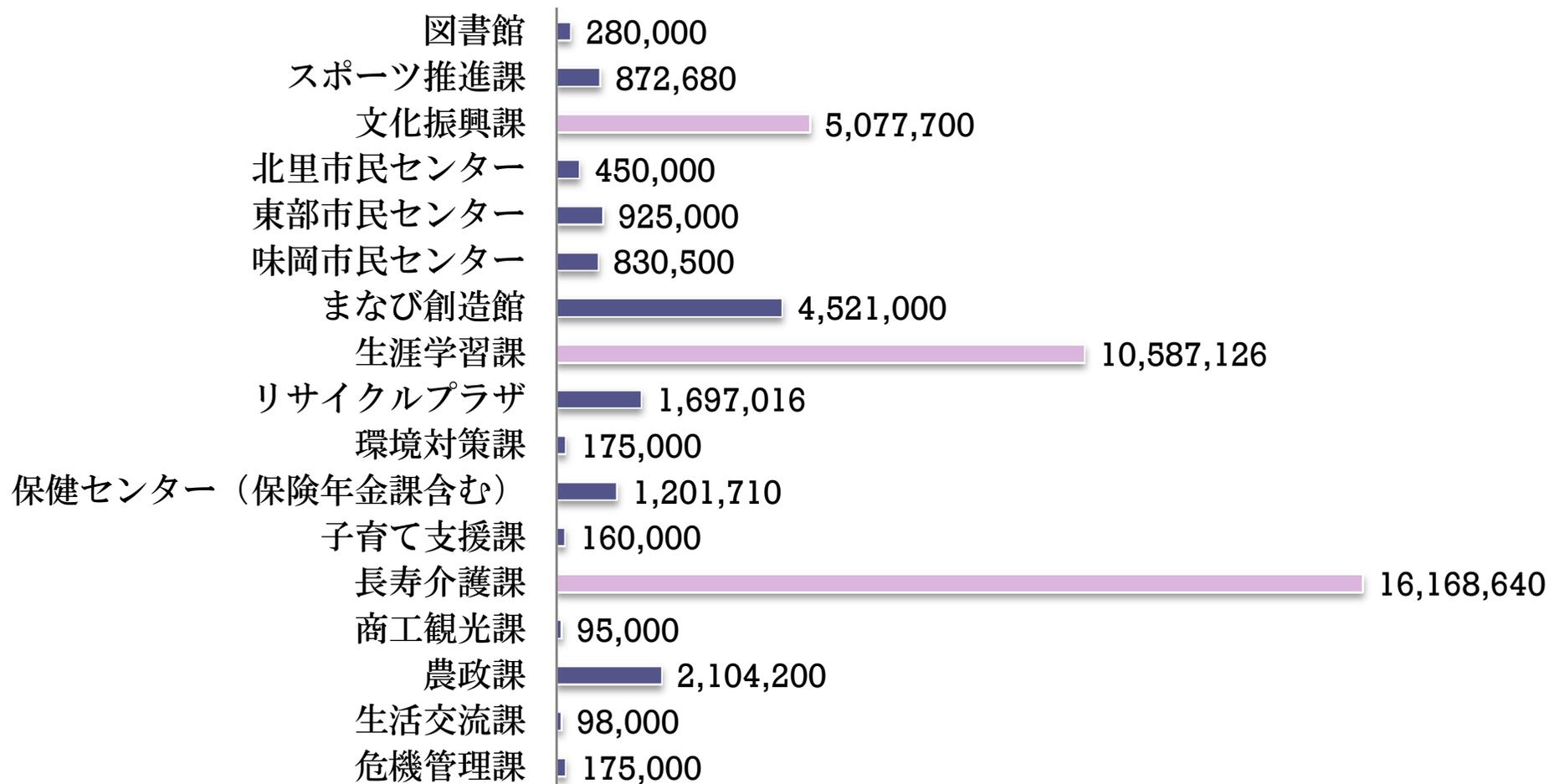
- 分析対象とした講座等は、平成24年度に、18課の36事務事業で182講座が開催された。
- 講座等の実施数では、生涯学習課（43）、まなび創造館（38）など、教育委員会事務局が多くの講座を所管しており、次いで長寿介護課（17）、保健センター（12）など健康福祉部が多い。



講座開催経費

- 分析対象とした182講座等の実施にかかった平成24年度の直接経費は約4,541万円である。（講座等の開催に要する正規・臨時職員の人件費を含めると約8,605万円）
- 課別の決算額（直接経費）では、長寿介護課、生涯学習課、文化振興課が高い。

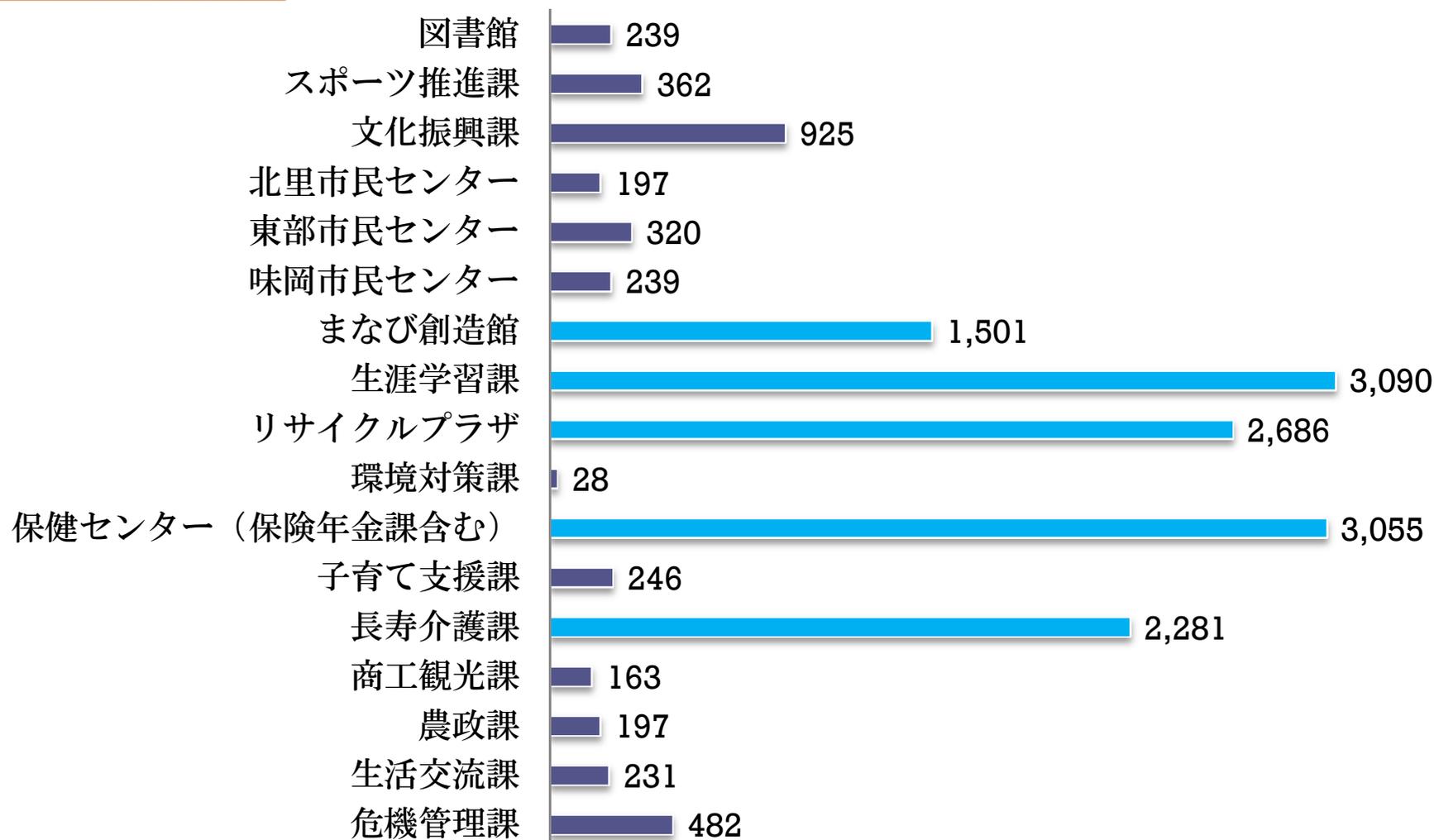
課別の直接経費



受講者数

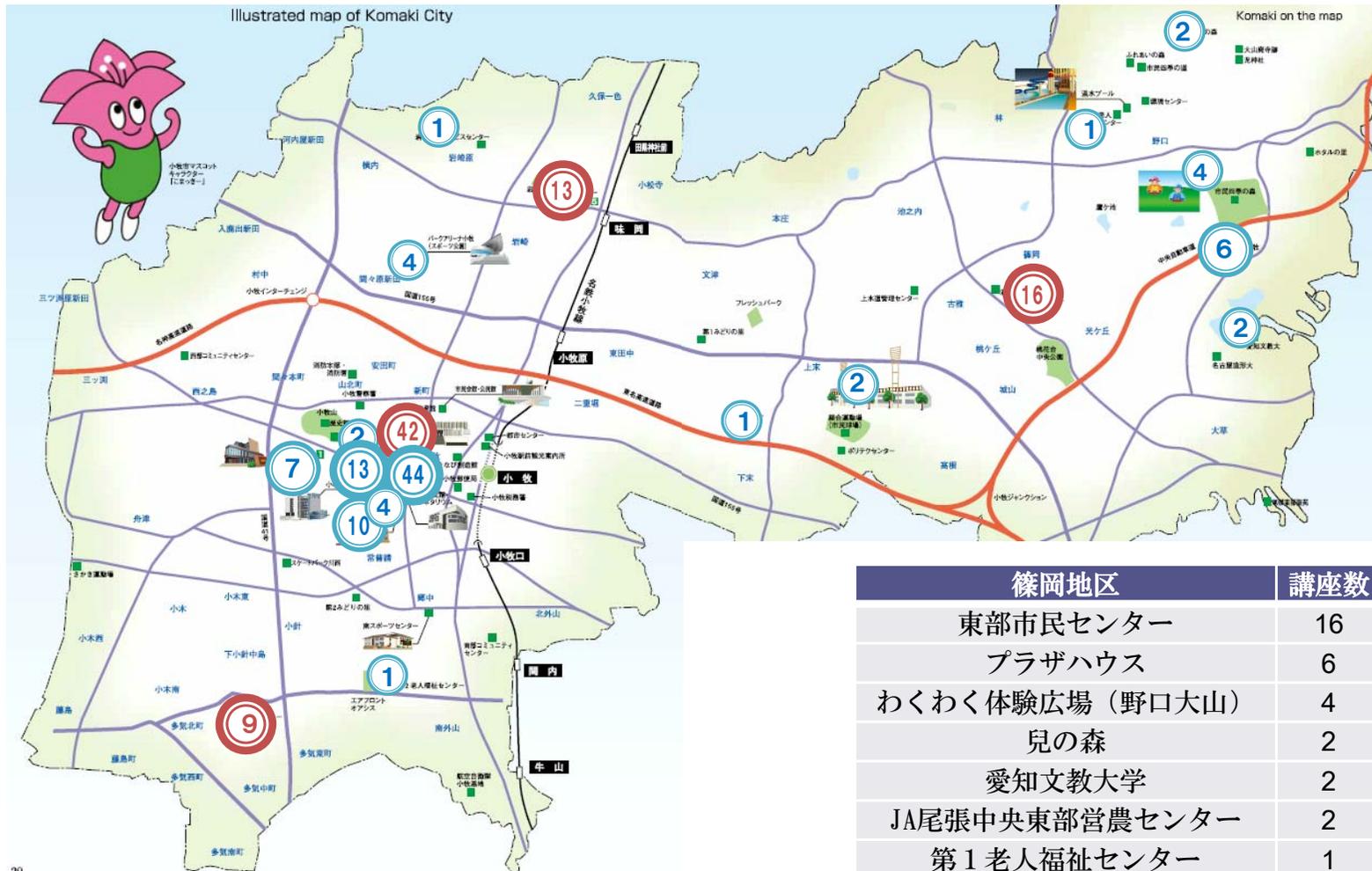
- 分析対象とした182講座等を受講したのは16,242人である。
- 課別の受講者数では、生涯学習課、保健センター、リサイクルプラザ、長寿介護課、まなび創造館が多い。

課別の受講者数



開催場所

- 下表のとおり、市内の中心地で多くの講座が開催されており、篠岡地区では、体験施設を活用した講座が多いことが分かった。



| 小牧地区 | 講座数 |
|----------|------------|
| 市公民館 | 30 |
| 中部公民館 | 13 |
| まなび創造館 | 44 |
| 市民会館 | 12 |
| 保健センター | 10 |
| 市役所 | 7 |
| ふれあいセンター | 4 |
| 図書館 | 2 |
| 小牧中学校 | 1 |
| メナード美術館 | 1 |
| 計 | 124 |

| 篠岡地区 | 講座数 |
|----------------|-----------|
| 東部市民センター | 16 |
| プラザハウス | 6 |
| わくわく体験広場（野口大山） | 4 |
| 兒の森 | 2 |
| 愛知文教大学 | 2 |
| JA尾張中央東部営農センター | 2 |
| 第1老人福祉センター | 1 |
| 勤労センター | 1 |
| 計 | 34 |

| 味岡地区 | 講座数 |
|----------|-----------|
| 味岡市民センター | 13 |
| パークアリーナ | 4 |
| 小牧工業高等学校 | 1 |
| 計 | 18 |

| 北里地区 | 講座数 |
|------------|-----------|
| 北里市民センター | 9 |
| 第2老人福祉センター | 1 |
| 計 | 10 |

第3次小牧市生涯学習推進計画

- 本市では、平成25年3月に策定した「第3次小牧市生涯学習推進計画」（計画期間：H25～H31）のもと、「であい、まなびあう」「いかす」「つなげる」の3本柱とする事業を展開し、学びの好循環による生涯学習のまちづくりに取り組んでいる。

第3次小牧市生涯学習推進計画における講座関係事業の位置づけ（抜粋）

| 基本目標 | 施策の方向性 | 具体的施策 | 重点事業 |
|-----------|-------------------|--|--|
| であい、まなびあう | 充実した学びの場の提供 | <ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズ、社会的課題に対応した多様な内容の講座等の実施 ライフステージに応じた学習機会の充実 学習者の特性をいかした学習支援体制の整備 サークル、グループ活動の紹介支援 | <ul style="list-style-type: none"> 市民講座等の実施 市民企画講座の充実 スポーツ教室等によるスポーツの推進 文化・芸術の振興 子ども読書活動の推進 家庭教育の推進 男女共同参画社会の推進 |
| | 多様な生涯学習の情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> 「生涯学習ガイド こまなび」や「学びノート」等による多様な生涯学習情報の発信 「こまなびサロン」（生涯学習推進センター）での多様な情報の収集、発信 | <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習ガイド こまなびの発行 学びノートの充実 |
| いかす | 学びの成果が活用できる仕組みの充実 | <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習団体等による講座の実施 生涯学習ボランティア登録等の人材活用制度の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 出前講座や生涯学習講師・市民ボランティア登録の充実及び活用推進 ジュニアセミナーの実施 小牧市民大学こまきみらい塾修了生による講座の実施 |
| | 地域で活躍できる人材の発掘・育成 | <ul style="list-style-type: none"> リーダーやコーディネーター等の養成講座の充実 サークル、グループの活動の活性化に向けた支援 新たな人材発掘のための仕組みづくり | <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習ボランティアコーディネーター養成講座の実施 公認スポーツ指導員養成講座の実施 |
| つなげる | 市民との協働による学びの推進 | <ul style="list-style-type: none"> 協働事業等の推進 地域社会の資源を活用した市民と行政の協働による地域課題の解決 | <ul style="list-style-type: none"> 協働提案事業化制度を活用した学びの創造 市民団体や施設と協働で進める自主文化事業の推進 |

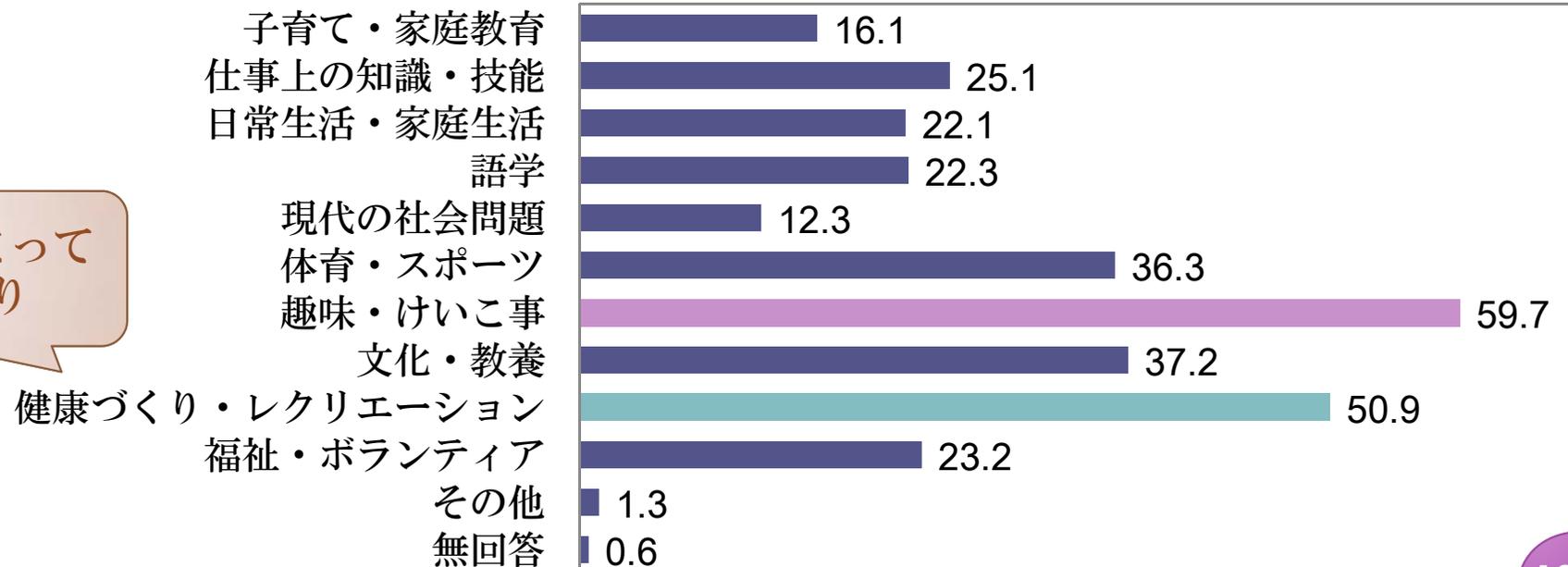
過去の市民アンケート結果①

- 第3次小牧市生涯学習推進計画の基礎資料とするために、生涯学習課において、平成23年11月に市内居住の20歳以上の3,000人を対象に市民意識調査「生涯学習に関する市民アンケート」が実施されている。（回収数1,012件、回収率33.7%）

講座・講演会に対する満足度



取り組みたい生涯学習活動の内容

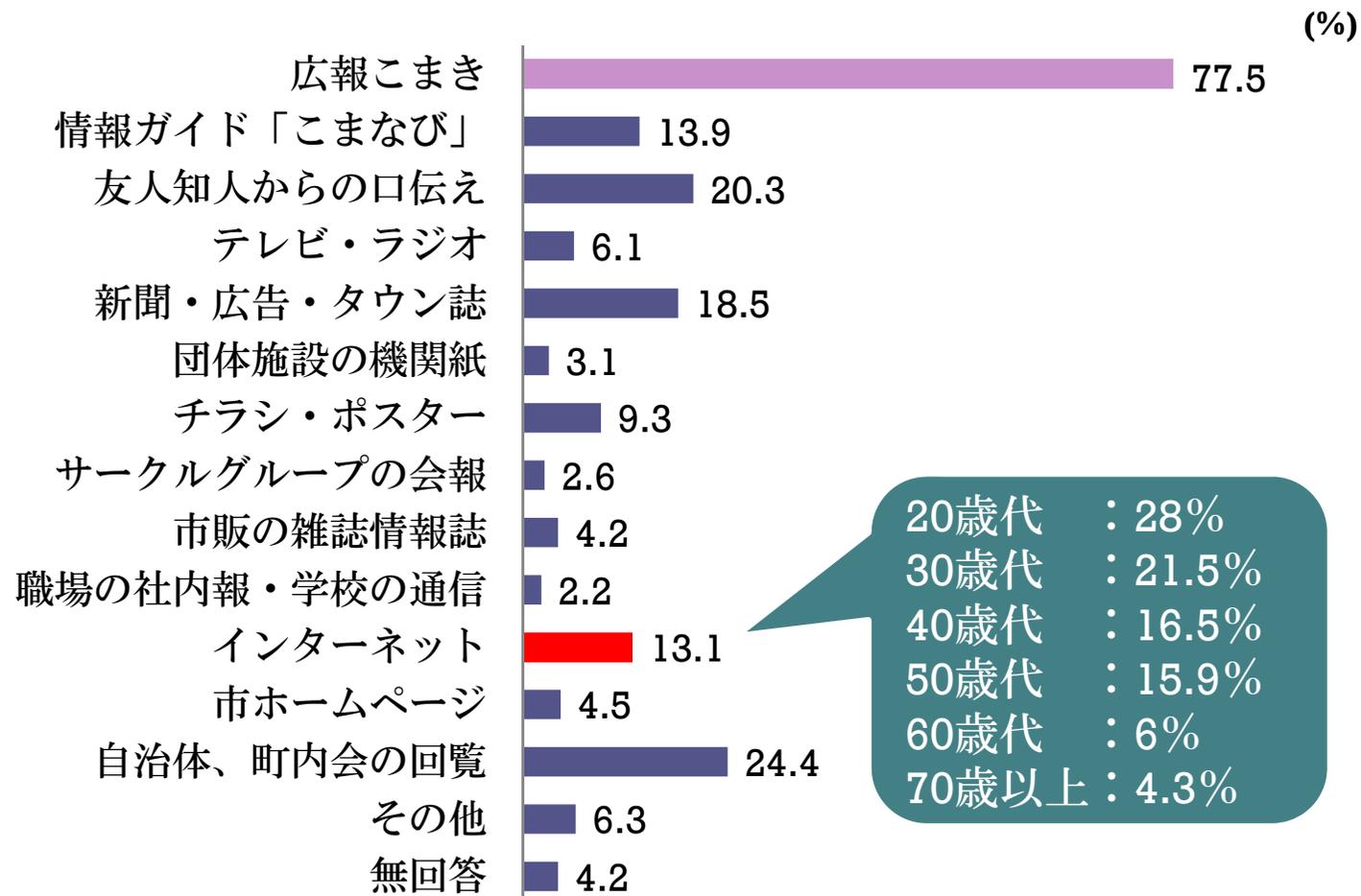


健康志向が高まっている傾向あり

過去の市民アンケート結果②

情報の入手方法

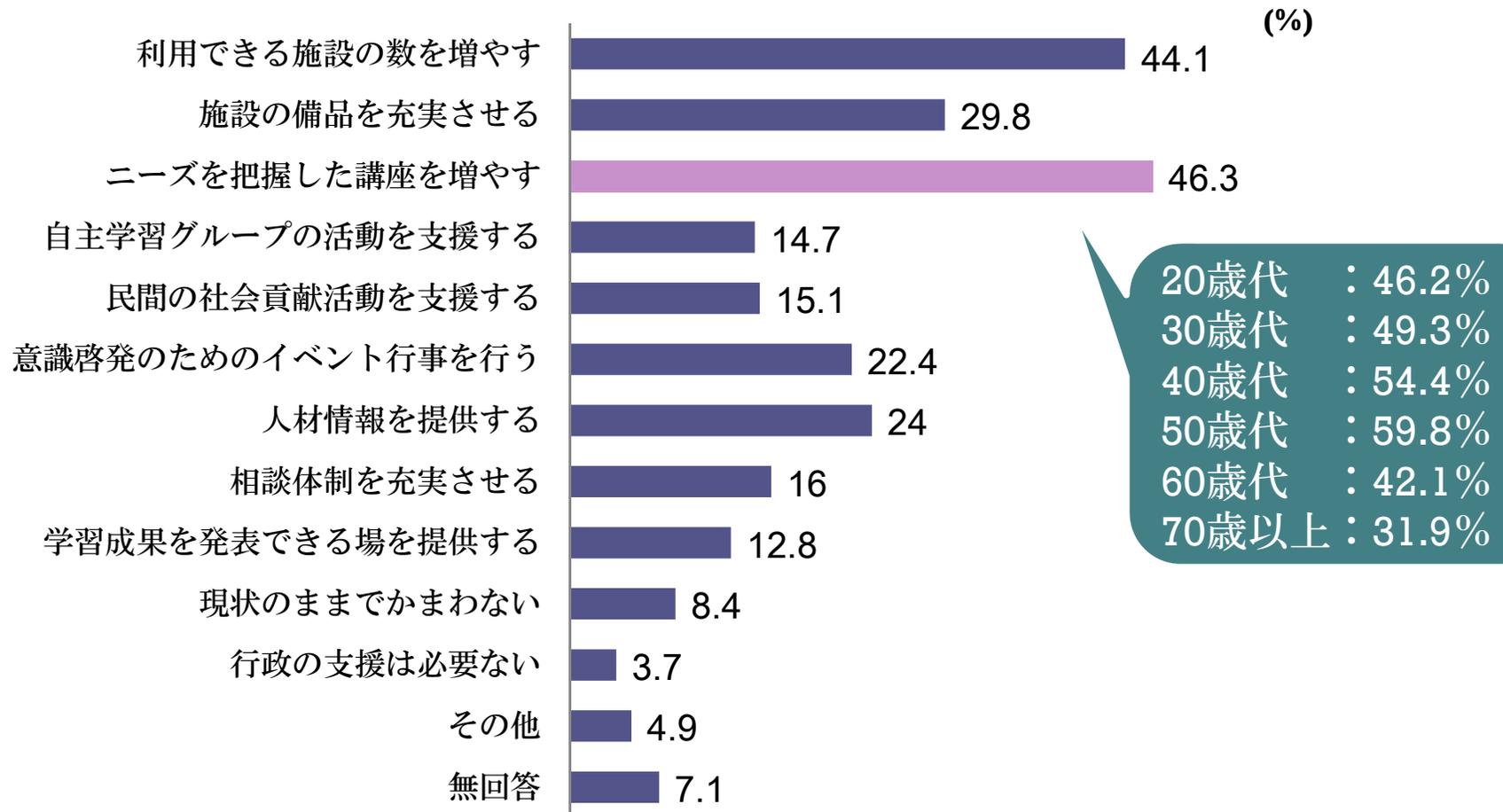
- 「広報こまき」が77.5%と圧倒的に他の方法より高く、「生涯学習情報ガイドこまなび」については、13.9%であった。また、「インターネット」については、若い世代ほど活用されている傾向が伺えた。



過去の市民アンケート結果③

生涯学習の振興に必要な施策

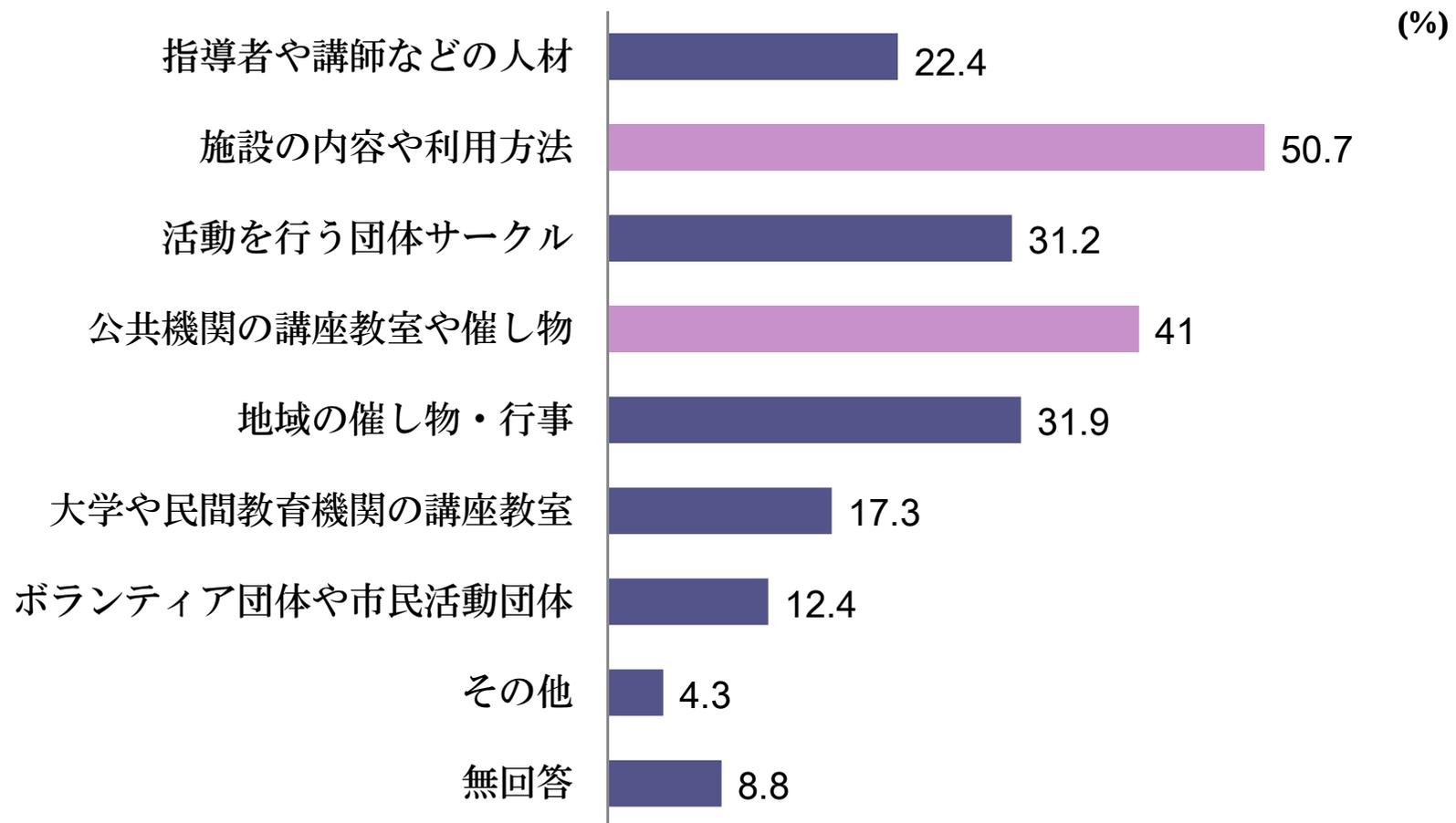
- 生涯学習の振興に必要な施策については、「ニーズを把握した講座を増やす（46.3%）」で最も多い。年齢別では、20～59歳代において割合が高く、60～79歳以上では大きく減っている。



過去の市民アンケート結果④

生涯学習活動に取り組むために得たい情報

- 生涯学習活動に取り組むために得たい情報については、「施設の内容や利用方法（50.7%）」が最も多く、次いで「公共機関の講座教室や催し物（41.0%）」が多い。



Ⅲ 講座全般の分析

1. 市民一人あたりの講座にかかる経費

- 平成24年度講座開催経費を人口で割り、市民1人あたりの講座経費を算出したところ、本市では**約297円/人**の経費がかかっていた。
- 本市の市民1人あたりの講座経費は、アンケート調査の経費欄に回答のあった県内16市の平均値（約173円/人）や類似都市も含めた平均値（約197円/人）より、やや高いことが分かった。

| 平成24年度 講座開催直接経費 | 人口 | 人口一人あたりの 講座にかかる経費 |
|--------------------|----------|----------------------|
| 45,418,572円 | 153,170人 | 約297円 |

| | |
|----------------------|-------|
| 小牧市 | 約297円 |
| 県内(16市)の平均 | 約173円 |
| 県内(16市)+類似都市(12市)の平均 | 約197円 |

平均より
高い傾向

【抽出された課題】

- 講座にかかる経費が高いこと自体が悪いということにはならないが、経費増加を抑制するため、新たな講座を開始する場合は、事業のスクラップ・アンド・ビルドに取り組む必要がある。
- 講座開催には多くの人件費を要しているため、できるかぎり効率的な運営に努める必要がある。

2. 開催期間（近年開講した講座）

- 近年（平成22年から平成24年の3カ年）に開講した講座は、民間委託化が進み、人件費が低く抑えられているが、委託料のため、直接経費及び全体経費としては、高い傾向にあった。

H22開講

| 講座名 | H24決算額 (直接経費) | H24決算額 (人件費) | H24決算額 (合計) |
|--------|------------------|-----------------|----------------|
| 古文書講演会 | 52,100 | 0 | 52,100 |
| 計 | 52,100 | 0 | 52,100 |

H23開講

| 講座名 | H24決算額 (直接経費) | H24決算額 (人件費) | H24決算額 (合計) |
|-----------------------|------------------|-----------------|----------------|
| かんたん野菜作り講座 (春夏・秋冬) | 60,000 | 0 | 60,000 |
| 求職者支援セミナー | 75,000 | 533,000 | 608,000 |
| 元気アップ教室 | 4,185,300 | 106,600 | 4,291,900 |
| お口いきいき教室 | 2,700,000 | 106,600 | 2,806,600 |
| いきいき元気塾 | 180,000 | 426,300 | 606,300 |
| 古文書基礎講座 | 52,100 | 0 | 52,100 |
| 計 | 7,252,400 | 1,172,500 | 8,424,900 |

H24開講

| 講座名 | H24決算額 (直接経費) | H24決算額 (人件費) | H24決算額 (合計) |
|-----------|------------------|-----------------|----------------|
| 創業支援セミナー | 0 | 266,500 | 266,500 |
| クラシック鑑賞講座 | 2,400,000 | 53,300 | 2,453,300 |
| 計 | 2,400,000 | 319,800 | 2,719,800 |

2. 開催期間（長期にわたって開催している講座）

- 長期にわたって（平成10年度以前から）開催している講座は、直接経費は低く、職員の労力が多くかかっている講座が多い。また、全体経費としては、低く抑えられている傾向にあった。

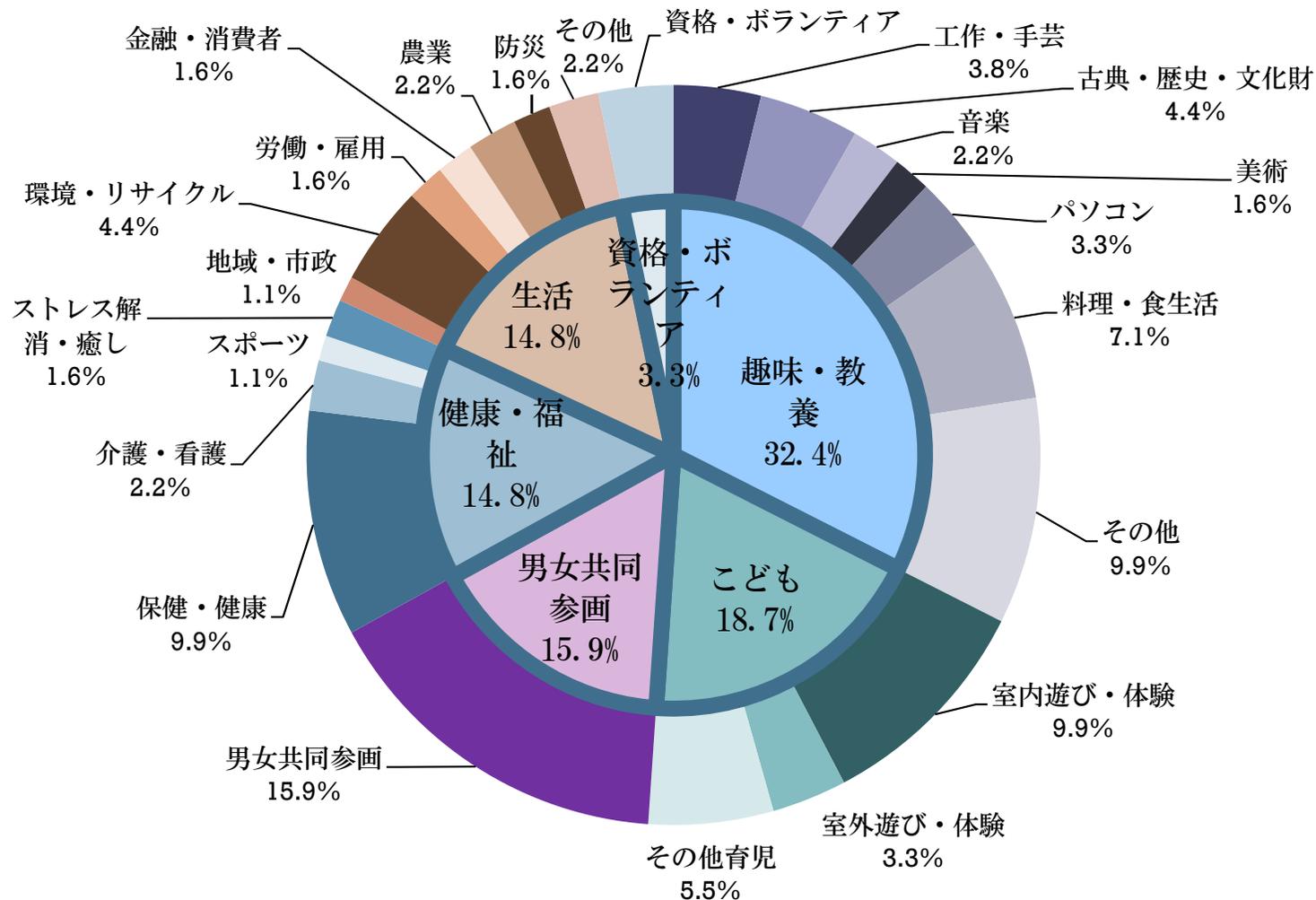
| 開始年度 | 講座名 | H24決算額 (直接経費) | H24決算額 (人件費) | H24決算額 (合計) |
|------|----------------|------------------|-----------------|----------------|
| S36 | 市立寿学園 | 8,505,000 | 1,066,000 | 9,571,000 |
| S58 | 消費生活特別講座 | 23,000 | 53,300 | 76,300 |
| S60 | 家庭看護講座 | 109,340 | 106,600 | 215,940 |
| S60 | 家庭看護公開講座 | | | |
| S60 | 認知症介護家族支援プログラム | 548,100 | 106,600 | 654,700 |
| 不明 | 生涯学習課市民講座 | 875,000 | 1,406,600 | 2,281,600 |
| 不明 | ゆうゆう学級2回生 | 146,000 | 903,300 | 1,049,300 |
| 不明 | ゆうゆう学級1回生 | 114,000 | 903,300 | 1,017,300 |
| H2 | 東部ゆうゆう学級 | 164,000 | 1,599,000 | 1,763,000 |
| H2 | 東部つつじ学級 | 138,000 | 1,599,000 | 1,737,000 |
| H2 | 東部市民センター市民講座 | 623,000 | 2,398,500 | 3,021,500 |
| H4 | 北里市民センター市民講座 | 314,000 | 485,000 | 799,000 |
| H5 | 北里ゆうゆう・つつじ合同学級 | 136,000 | 485,000 | 621,000 |
| H8 | 味岡市民センター市民講座 | 598,500 | 1,332,500 | 1,931,000 |
| H8 | 味岡ゆうゆう学級 | 108,000 | 1,332,500 | 1,440,500 |
| H8 | 味岡つつじ学級 | 124,000 | 1,332,500 | 1,456,500 |
| | 計 | 12,525,940 | 15,109,700 | 27,635,640 |

【抽出された課題】

- 長期にわたって開催している講座が多い。
- 新たな講座を委託により開始する場合は、「民間委託の推進に関する指針」(平成25年1月策定)の基準に当てはめて判断する必要がある。

3. 講座の分類化（分類別の割合）

- 講座の種類を見るため、6の大分類、23の小分類に分類し、講座数、経費の割合を算出した。
- 大分類では、「趣味・教養」が32.4%、「子ども」が18.7%と多い傾向であった。
- 小分類では、「男女共同参画」が15.9%、趣味・教養の「その他」、「室内遊び・体験」「保健・健康」が9.9%と多い傾向であった。



3. 講座の分類化（他市比較）

- 6つの大分類で、県内市と講座数の割合を比較したところ、本市は「男女共同参画（15.9%）」の割合が県内16市の平均（2.4%）に比べ高く、「趣味・教養（32.4%）」と「健康・福祉（14.8%）」の割合が平均に比べ低い結果となった。
- 6つの大分類で、県内市と決算額（直接経費）の割合を比較したところ、本市は「健康・福祉（39.9%、18,141,020円）」「男女共同参画（8.5%、3,879,000円）」の割合が平均に比べて高く、「趣味・教養（23.9%、10,861,726円）」の割合が低い結果となった。

| 講座数 | | こども | 資格・ボランティア | 趣味・教養 | 生活 | 健康・福祉 | 男女共同参画 |
|-------------|-------|-------|-----------|-------|-------|-------|--------|
| | 小牧市 | 18.7% | 3.3% | 32.4% | 14.8% | 14.8% | 15.9% |
| 県内16市 平均 | 21.1% | 1.0% | 41.5% | 11.6% | 22.4% | 2.4% | |

| 決算額 | | こども | 資格・ボランティア | 趣味・教養 | 生活 | 健康・福祉 | 男女共同参画 |
|-------------|-------|-------|-----------|-------|-------|-------|--------|
| | 小牧市 | 16.8% | 1.3% | 23.9% | 9.6% | 39.9% | 8.5% |
| 県内16市 平均 | 15.3% | 0.7% | 37.9% | 13.9% | 29.5% | 2.7% | |

【抽出された課題】

- 他市と比較して、講座数・経費ともに全講座に占める男女共同参画の割合が大きいため、適正化を図る必要がある。詳細については、個別課題の分析（こまきみらい塾）に記述する。

4. 講座・講師等の選定方法

- 生涯学習課の市民講座及びゆうゆう学級の企画・運営については、市公民館に設置されている「こまなびサロン」が担っている。
- 生涯学習課以外のほとんどの講座については、担当課の職員がインターネットや「生涯学習講師・市民ボランティア名簿」などを参考に、開催する講座のテーマや内容を企画し、講師への交渉、日程調整などを行っている。
- 他市アンケートでは、「講座を企画する専門職員がない」という課題を抱える市が県内市では50%（34市中17市）、類似市では42.5%（40市中17市）ある。
- 本市では、こまなびサロン以外に講座を企画する専門職員がないため、毎年度異なる内容で多くの講座を開催する課では、講座の企画及び講座選定等にかかる業務量が多い。
- 公民館活動として実施する講座についても、各公民館（生涯学習課、各市民センター）がそれぞれ企画・実施しており、実施回数や内容にばらつきがある。

こまなびサロン

- 市公民館に設置されている「小牧市生涯学習推進計画」を推進する拠点施設
- 職員4名を配置し、生涯学習に関する情報の収集・発信、相談、講座の企画、支援等を行っている。
- 同計画では、今後さらに生涯学習推進センターとしての機能を高め、**総合的な生涯学習の活動拠点となるよう整備していくこととしている。**

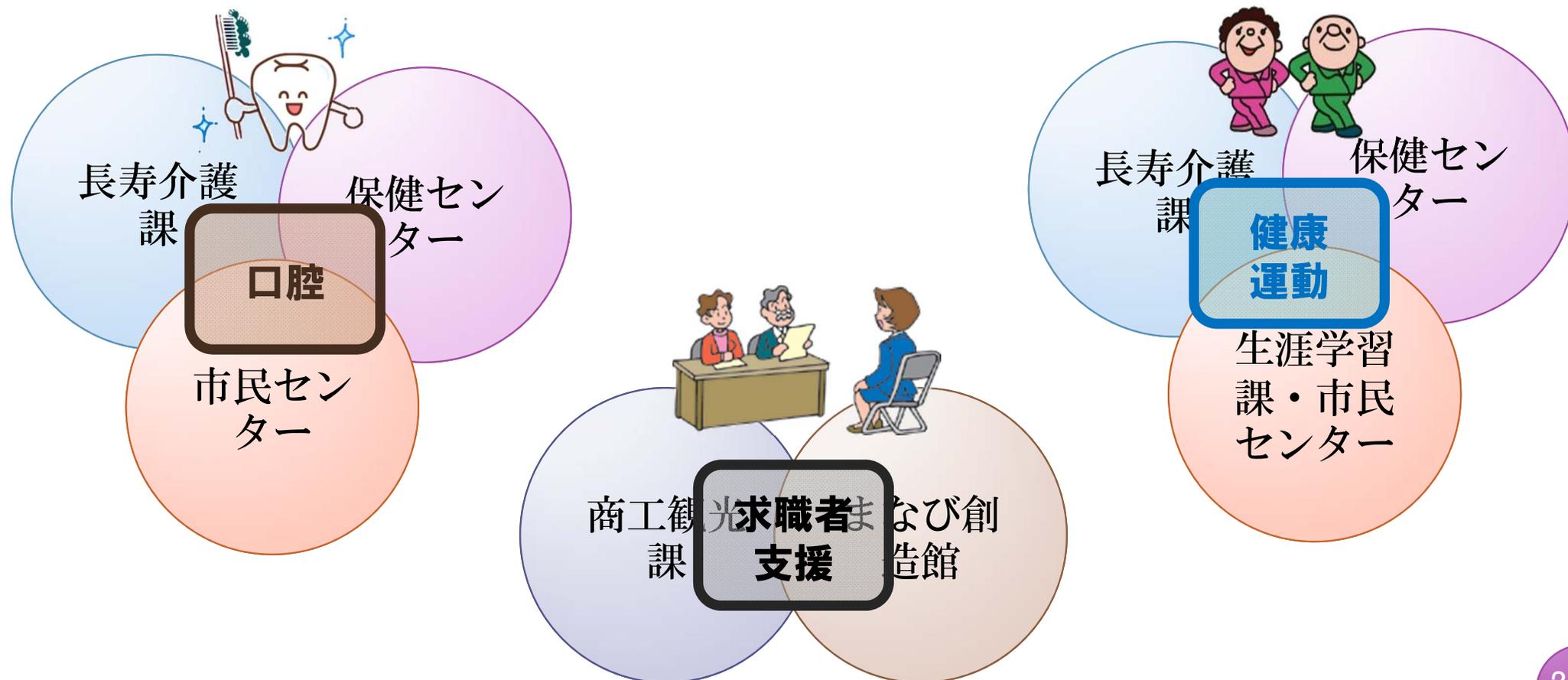


【抽出された課題】

- 講座選定にかかる業務量の削減に対する取組みが必要である。
- 公民館活動として実施する講座事業については、各公民館がそれぞれ企画、実施をしているため、実施回数や内容にばらつきがあり、市全体としての計画性や公平性が考慮されていない。

5. 他部署との重複

- 講座を多く所管している教育委員会事務局内では、年2回各課の担当者が出席する連絡会議を設けて、講座の内容が重複しないかチェックしているが、詳細な内容や回数など細部までは調整されていなかった。
- 部の枠を超えた調整は行われていないため、多くの課では他の部課がどのような講座を開催しているのか情報を持っていない。
- 結果として、【口腔関係】【健康運動関係】【求職者支援関係】において、複数の課が類似する講座を実施していた。



5. 他部署との重複（口腔関係）

- 口腔関係は、長寿介護課、保健センター、東部市民センターで6講座実施しており、このうち、受講率が40%以下と低い講座が4講座あった。

| 講座等の名称 (担当課) | 講座等の内容 | 受講対象者 | 受講率 | 平均 年齢 | 決算額（円） (人件費含む) |
|---|---|--|-----|----------|----------------------------|
| 家庭介護のためのハートフル ケアセミナー（長寿介護課） | ・健康寿命を延ばす口腔ケア ・食生活から介護予防を考える | 要介護者を介護している方 介護や福祉に関心のある方 | 37 | 不明 | 0 (159,900) |
| お口いきいき教室 (長寿介護課) | 介護が必要とならないために、口腔機能の維持・向上を図る。 | 元気度チェックリストの実施により二次予防事業対象者と判断された方 | 30 | 75 | 2,700,000 (2,806,600) |
| いきいき元気塾 (保健センター) | 運動編・お口編の2講座開催。お口の機能向上のための体操を実施し、介護予防についてPRする。 | 60歳以上の市民 | 不明 | 不明 | 180,000 (605,970) |
| にこにこむし歯予防教室 (保健センター) | 健康教育、歯垢の染め出し、歯みがき指導、個別指導 | ・歯の生え始めた子及びその保護者 ・1歳6か月児歯科健診にて、経過観察が必要と認められた者とその保護者 | 65 | 不明 | 0 (312,000) |
| おうち元気はつらつ教室（保険年金課・保健センター） | 口腔機能の話、口腔機能アップ体操、栄養の話について | 市内在住の方 | 40 | 不明 | 19,200 (19,200) |
| お口の元気は体の元気～歯の健康を守って、日々自分磨きをしよう～ (東部市民センター) | お口の健康について、お口体操やマッサージを行います。若さと健康の源であるお口の大切さについても楽しく学ぶ。 | 市内在住・在勤・在学の18歳以上方 | 35 | 65 | 28,000 (28,000) |

5. 他部署との重複（健康教室関係）

- 健康運動関係は、長寿介護課、保健センター、生涯学習課、市民センターで10講座実施していた。

| 講座等の名称 (担当課) | 講座等の内容 | 受講対象者 | 受講率 | 平均年齢 | 決算額(円) (人件費含む) |
|----------------------------------|---|----------------------------------|-----|------|--------------------------|
| 元気アップ教室 (長寿介護課) | 介護が必要とならないために、運動機能の維持・向上を図る。 | 元気度チェックリストの実施により二次予防事業対象者と判断された方 | 50 | 76 | 4,185,300 (4,291,900) |
| めざせ若返り教室 (保健センター) | 膝・腰痛が気になり始めた頃に機能訓練を行うことで、今後の日常生活動作の予防・改善を行う。 | 40歳～65歳未満の市内在住で有症状のある方 | 85 | 58 | 801,000 (1,285,900) |
| いきいき元気塾 (保健センター) | 運動編・お口編の2講座開催。筋力アップのための家でもできる簡単体操を実施し、介護予防についてPRする。 | 60歳以上の市民 | 不明 | 不明 | 180,000 (606,300) |
| 転ばぬ先の転倒予防教室 (保険年金課・保健センター) | 転倒しやすい環境の見直し、転倒しにくいからだ作り運動について | 市内在住の方 | 83 | 不明 | 40,400 (40,400) |
| 体しなやか膝・腰すっきり教室 (保険年金課・保健センター) | 膝・腰痛の原因、体の使い方、予防体操について | 市内在住の方 | 80 | 不明 | 39,000 (39,000) |
| 生き生き体操教室 (保険年金課・保健センター) | 生活に必要な筋力や柔軟性を保つためのストレッチ、筋力トレーニング、自律神経を整えるための呼吸法 | 市内在住の方 | 不明 | 69 | 0 (26,650) |
| 元気はつらつ健康体操 (生涯学習課) | 年齢を問わずだれでも気軽にできる体操を学ぶ | 市内在住・在学・在勤の18歳以上 | 100 | 67 | 80,000 (173,777) |
| やさしいフィットネス体操(味噌市民センター) | 姿勢を意識して、体の声に耳を傾け、簡単な体操をする。腰痛・肩こり・膝痛の方、予防改善につながる。 | 市内在住・在勤の方 | 57 | 54 | 80,000 (246,562) |
| 腰痛予防に効く!～毎日気軽に楽々スポーツ～(東部市民センター) | 色々な動きを取り入れた簡単なスポーツで、腰痛予防など健康な体づくりを行う。 | 市内在住・在学・在勤の18歳以上 | 77 | 66 | 70,000 (309,355) |
| ジャズダンスで毎日イキイキ健康に!(東部市民センター) | リズムに乗り、自由の体を動かしながら踊ることで、若さを保ち、健康な体を手に入れる。 | 市内在住・在学・在勤の18歳以上 | 100 | 56 | 98,000 (337,850) |

5. 他部署との重複（求職者支援関係）

- 求職者支援関係は、商工観光課及びまなび創造館で3講座実施していた。

| 講座等の名称 (担当課) | 講座等の内容 | 開催場所 | 受講対象者 | 受講率 | 平均年齢 | 決算額(円) (人件費含む) |
|---------------------------------|--|---------------------------------------|---|-----|------|------------------------|
| 求職者支援セミナー (商工観光課) | ①「適性検査を受けて自己理解から始めよう！」 ②「はじめの一步！面接の受け方」 ③「はじめの一步！履歴書の書き方」 ④「働く前に知っておきたい 給与・税金・社会保障」 ⑤「子育てママの再就職準備セミナー」 | 市役所 会議室、 まなび 創造館 多目的 室 | 求職者 | 72 | 30代 | 75,000 (608,000) |
| 就労支援パソコン講座 エクセル編 (まなび創造館) | 経済的に困難な状況にある女性のために「就労支援パソコン講座」を女性センターが企画開催し、自立のための手段となる機会を提供する。 | まなび 創造館 学習室 | ひとり親家庭手当受給者・児童扶養手当受給者及び遺児手当受給者・生活保護受給者・母子家庭生活支援施設入所者、その他これに準ずる経済的に困難な状況にあり就労の意欲のある女性、DV被害女性 | 100 | 37 | 120,000 (137,589) |
| 就労支援パソコン講座 ワード編 (まなび創造館) | | | | 50 | 39 | 72,000 (89,589) |

【抽出された課題】

- 講他部署と重複を避けるために、部内での調整は図られていたが、部を越えた調整がされていないため、講座情報を一元化するなど、庁内の各部署で講座の内容が重複しない仕組みづくりが必要である。また、調整の時期が、ほぼ講座内容が決まってからであるため、開催時期の調整等に限られる可能性がある。

6. 受講率（概要）

- 182講座中、受講率が90%以上の講座は次の70講座であった。
- 一方、受講率が50%以下の講座が23講座あり、まなび創造館の「こまきみらい塾」、長寿介護課の二次予防に関する講座に受講率が低い講座が多くあった。

| 担当課 | 講座等の名称 | 講座等の内容 | 受講率 | |
|---------------------|--|---|-----|----|
| 生活交流課 | 消費生活特別講座 | 消費生活知識の向上を図り、主体性のある消費者の育成を目的とし、消費生活改善推進委員の研修も兼ねている。 | 45 | |
| 商工観光課 | 求職者支援セミナー② | 「はじめの一步！面接の受け方」好印象を与える面接マナーを学び実践的なトレーニングを行う。 | 25 | |
| 長寿介護課 | 家庭介護のためのハートフルケアセミナー | 要介護者を介護している市民・介護や福祉に関心のある市民を対象に、家庭介護に関する各種知識について学ぶ。 | 37 | |
| | 認知症介護家族支援プログラム | 認知症の人を介護している家族同士の交流や認知症について、介護の仕方についての知識を得る。 | 35 | |
| | 元気アップ教室 | 介護予防法に基づき、介護が必要とならないために、運動機能の維持を図る。 | 50 | |
| | お口いきいき教室 | 介護予防法に基づき、介護が必要とならないために、口腔機能の維持・向上を図る。 | 30 | |
| 保健センター | おくち元気はつらつ教室 | 口腔機能の話、口腔機能アップ体操、栄養の話などについて、年間2回開催する。 | 40 | |
| 環境対策課 | 自然環境観察人養成講座 | 自然環境観察人になるための基礎知識を習得することを目的とし、隔年開催している。（フィールドワークあり。） | 37 | |
| 生涯学習課 | Jrセミナー「科学工作コース①」 | 科学工作や実験を通して、さまざまな仕組みを学ぶ。 | 40 | |
| | Jrセミナー「友だちづくり」 | 特別支援を必要とする児童・生徒を対象に、料理やゲームを通して仲間作りの楽しさを学ぶ。 | 40 | |
| まなび創造館 | 父親を楽しもう♪みんなのハッピーバランス | 男女共同参画に対する意識改革につながる学習の機会を提供し、より一層の理解と意識を高める | 35 | |
| | こまきみらい塾 | からくり人形の不思議 | | 35 |
| | | 話し方の極意～何をどう話すか～ | | 50 |
| | | 女性と福祉 | | 45 |
| | | 古典と言語をめぐって | | 50 |
| | | ジェンダー・フリーにつながる社会の課題 | | 50 |
| | | 免疫力UPでココロもカラダもほっこり | | 50 |
| | | 地域の課題に取り組む | | 45 |
| 市民講座（ロマンティックレースアート） | 針や糸を使わずにレース・リボン・布で日常使うなにげない小物をロマンティックに変身させる。 | 25 | | |
| 就労支援パソコン講座ワード編 | 経済的に困難な状況にある女性に、自立のための手段となる機会を提供する。 | 50 | | |
| 東部市民センター | お口の元気は体の元気～歯の健康を守って、日々自分磨きをしよう～ | お口の健康について、お口体操やマッサージを行うほか、若さと健康の源であるお口の大切さについても楽しく学ぶ。 | 35 | |
| 文化振興課 | 古文書講演会 | 「尾張徳川家と小牧山に関する話」をテーマに講演会を実施。 | 40 | |
| 図書館 | 大人も楽しもう！児童文学の世界 | 大人の方を対象に、子どもたちがどのような児童文学に惹かれるのか知る機会とする。 | 40 | |

6. 受講率（他市の取組み）

- 「県内市・類似都市アンケート」においては、県内市34市のうち28市（82%）で、類似都市40市のうち33市（83%）において、受講者が集まらない講座があると回答があった。
- 受講率の向上のための取組みとしては、広報・周知関係や開催日程関係、付属サービスなどの取組みが県内市・類似都市ともに多く挙げられた。
- 本市の申込方法においては、往復はがきの提出又は窓口への来庁が必要となる講座が多い状況である。受講率の向上のための県内市・類似都市の取組みとして、応募方法の簡素化に取り組んでいる市もあった。

他市の主な取組み

広報・周知関係

- 広報紙、HP、フェイスブックでの周知
- 学校や児童クラブなどへのチラシ配布、ポスター掲示 など

日程関係

- 土日や夜間など開催曜日・日程、開催頻度の工夫 など

付属サービス

- 託児の設置
- メールでの申込みなど、応募方法の簡素化 など

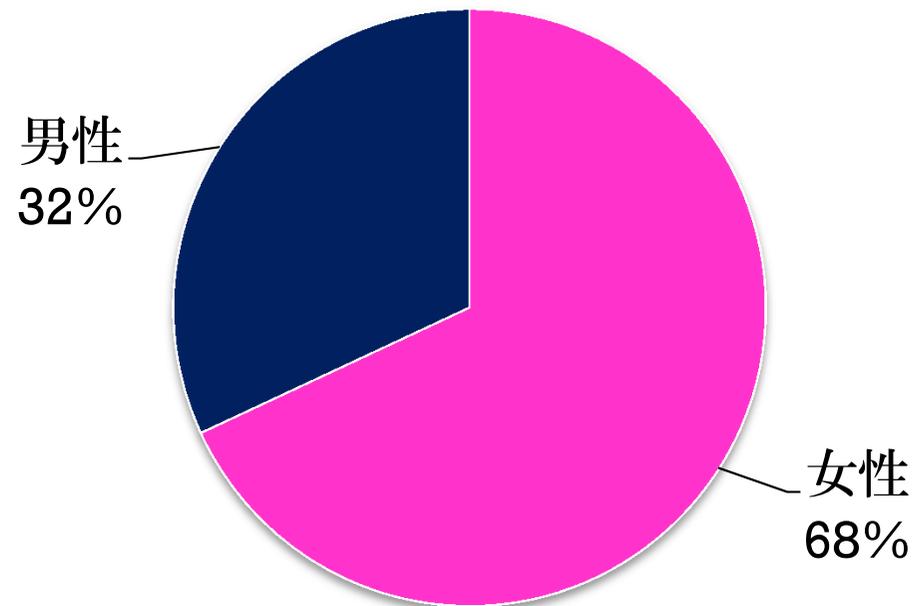
【抽出された課題】

- 受講率の低い講座については、廃止を含め、実施内容の見直しが必要である。
- 講座に興味を持った人がより手軽に講座に申し込みできるよう、手続きの簡素化を図る必要がある。

7. 受講者の特性（性別）

- 受講者名簿が記録されている120講座を対象に調査した結果、受講者の性別においては、男子1,140人（約32%）、女性2,433人（約68%）であり、平均年齢は、全体平均60歳（男性65歳、女性58歳）であった。
- 女性のみを受講対象とする講座は5講座、男性のみを受講対象とする講座は2講座あった。

受講者の性別割合



7. 受講者の特性（平均年齢）

- 98講座のうち、受講対象者が広い年齢層にも関わらず、受講者の平均年齢が高い講座（60歳以上）が57講座あり、平均年齢が低い講座（50歳以下）は8講座のみであった。

| 講座等の名称 | 講座等の内容 | 平均年齢 |
|-----------------|--|-------|
| 5市町合同防災カレッジ | 地域の防災意識普及のための防災リーダーの養成を目的とした講座で、防災リーダーとして活動するために災害の基礎知識や技術を取得する。 | 63 |
| 農業体験野菜栽培講座 | 市民を対象に、野菜等の栽培の講座や実習をおこなうことにより、市民の農業に対する親しみや興味を育てる。 | 64 |
| 認知症介護家族支援プログラム | 認知症の人を介護している家族同士の交流や認知症、介護の仕方についての知識を得る。 | 76 |
| 生き生き体操教室 | 生活に必要な筋力や柔軟性を保つため、ストレッチ、筋力トレーニング、自律神経を整えるための呼吸法を学ぶ。 | 69 |
| 市民環境講座 | 市民の環境意識の向上を図り、既に活躍している方のレベルアップを目的とする。 | 62 |
| 生涯学習課市民講座（10） | 漆芸、元気はつらつ健康体操、男の家庭科「料理編」、身近な文化財に親しむ、女性の学級、薪能をより楽しむために、小牧の地元企業を知る、写真を上手に撮ろう、彩ふ織物アクセサリー、甲冑に学ぶ | 60～68 |
| こまきみらい塾（23） | 今、「方丈記」を読む、女性と仏教、平家物語、各国映画に見る女性の生き方、人物にたどる日本女性史、時事問題を知るための講座①、幸福のレシピ、歌舞伎の世界への誘い、からくり人形の不思議、知って納得！やさしいマナー講座、仕舞い支度はお済みでしょうか？、話し方の極意～何をどう話すか～、女性と福祉、古典と言語をめぐって、時事問題を知るための講座②、日本の古典とはどういうものか、日本の政治を学ぶ、ジェンダー・フリーにつながる社会の課題、人生を楽しくするセルフデザイン法、免疫力UPでココロもカラダもほっこり、信頼と幸せをつかむ心理学、地域の課題に取り組む、災害に備える | 61～70 |
| まなび創造館市民講座 | ワードで作る☆はじめての年賀状 | 65 |
| 味岡市民センター市民講座（5） | いちから始めるエコクラフト手芸、3B体操-若返り貯筋体操-、市販の物を取り入れ楽々クッキング、はじめての日本画、初歩から始める囲碁講座 | 60～67 |
| 味岡つつじ学級 | 私たち 生活美人 | 61 |
| 東部つつじ学級 | 学び遊び創造する女性 | 64 |
| 市民講座（5） | 腰痛予防に効く！、かぎ針編みで小物を楽しく作りましょう、目指せ！貴方もソバ打ち名人！、お口の元気は体の元気、防虫効果も期待大！ | 63～66 |
| 市民講座（2） | ストレス解消してプラス思考！、尾張徳川家と徳川美術館 | 64、72 |
| ゆうゆう・つつじ合同学級 | ふれあい、学びあい、生きがい再発見 | 72 |
| 美術鑑賞講座 | ワークショップなど、受講者が参加することで作り上げる講義を行い、美術鑑賞のポイントや楽しみ方を学ぶ。 | 67 |
| 音楽鑑賞講座 | 生の演奏と講師のレクチャーにより音楽への理解を深める。 | 60 |
| クラシック鑑賞講座 | 指揮者による講義と生の演奏により音楽への理解を深める。 | 61 |
| 生涯学習課市民講座（2） | 洋楽ポップス、スイーツ講座 | 43、40 |
| まなび創造館市民講座（2） | 涼を楽しむゆかた教室、子どものお弁当にも使える簡単レシピ | 41、47 |
| こまきみらい塾 | 今、知っておきたい身体のこと | 47 |
| 就労支援パソコン講座（2） | エクセル編、ワード編 | 37、39 |
| 味岡市民センター市民講座 | 車いすシェフから習うプロの味 | 47 |

7. 受講者の特性（市内の人口分布との比較）

- 市公民館・3市民センターで開催される市民講座・ゆうゆう学級・つつじ学級において、地区別居住人口を比較した結果、居住者割合に比べ、篠岡地区の受講者が多く、小牧地区の受講者が少ない。

市民講座

| | 小牧地区 | 味岡地区 | 篠岡地区 | 北里地区 | 市外 | 計 |
|----------|--------------------|--------------------|------------------------|--------------------|--------------|----------|
| 市民講座の受講者 | 223人 (28.3%) | 183人 (23.2%) | 261人 (33.1%) | 121人 (15.3%) | 1人 (0.1%) | 789人 |
| 小牧市の人口 | 60,050人 (39.2%) | 36,582人 (23.9%) | 36,891人 (24.1%) | 19,821人 (12.9%) | | 153,344人 |

ゆうゆう学級

| | 小牧地区 | 味岡地区 | 篠岡地区 | 北里地区 | 市外 | 計 |
|------------|--------------------|-------------------|-----------------------|-------------------|--------------|---------|
| 65歳以上の人口 | 69人 (28.3%) | 63人 (25.8%) | 69人 (28.3%) | 42人 (17.2%) | 1人 (0.4%) | 244人 |
| ゆうゆう学級の受講者 | 10,976人 (37.5%) | 7,516人 (25.7%) | 6,302人 (21.5%) | 4,491人 (15.3%) | | 29,285人 |

つつじ学級

| | 小牧地区 | 味岡地区 | 篠岡地区 | 北里地区 | 市外 | 計 |
|------------|--------------------|--------------------|-----------------------|-------------------|--------------|---------|
| 18歳以上の女性人口 | 15人 (16.0%) | 22人 (23.4%) | 53人 (56.4%) | 2人 (2.1%) | 2人 (2.1%) | 94人 |
| つつじ学級の受講者 | 23,728人 (38.0%) | 14,831人 (23.8%) | 15,673人 (25.1%) | 8,145人 (13.1%) | | 62,377人 |

7. 受講者の特性（会場別の受講者の居住分布）

- 市民講座・ゆうゆう学級において、開催場所が市公民館であるものについては、市内の各地域の方が受講しているが、各市民センター開催の講座については、開催地区の受講者が多く、特に東部市民センターについてはその傾向が大きく、他地区の受講者割合は低い。

市民講座

| | 小牧地区 | 味岡地区 | 篠岡地区 | 北里地区 | 市外 |
|----------|------|------|------|------|-----|
| 市公民館 | 40.7 | 21.9 | 24.1 | 13.3 | 0.0 |
| 味岡市民センター | 22.1 | 51.0 | 21.4 | 4.8 | 0.7 |
| 東部市民センター | 14.4 | 13.5 | 69.4 | 2.7 | 0.0 |
| 北里市民センター | 32.2 | 13.2 | 7.2 | 47.4 | 0.0 |
| 合計 | 28.3 | 23.2 | 33.1 | 15.4 | 0.0 |

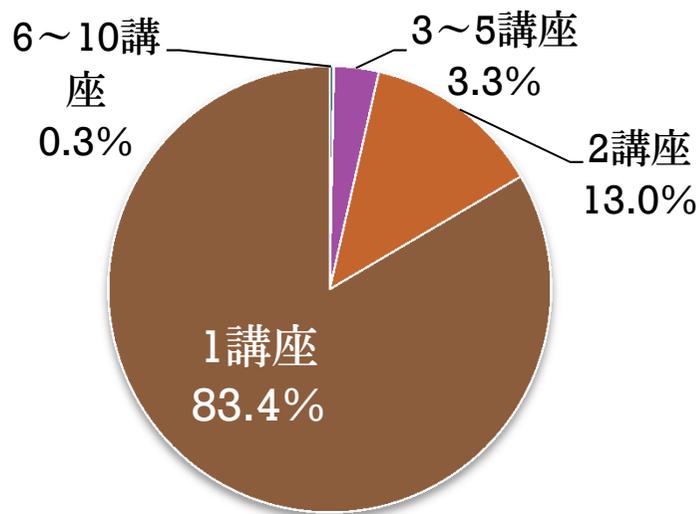
ゆうゆう学級

| | 小牧地区 | 味岡地区 | 篠岡地区 | 北里地区 | 市外 |
|----------|------|------|------|------|-----|
| 市公民館 | 41.4 | 20.2 | 23.2 | 14.1 | 1.0 |
| 味岡市民センター | 24.0 | 60.0 | 12.0 | 4.0 | 0.0 |
| 東部市民センター | 2.0 | 22.0 | 76.0 | 0.0 | 0.0 |
| 北里市民センター | 33.3 | 4.4 | 4.4 | 57.8 | 0.0 |
| 合計 | 28.3 | 25.8 | 28.3 | 17.2 | 0.4 |

7. 受講者の特性（受講者の固定化）

- こまきみらい塾の塾生を除き、受講者の重複を分析したところ、2講座以上を受講している方は16%であり、2,880名の受講者は実質2,353名である。
- 各講座においても、一部の講座では、新規受講者が少なく、受講者の固定化が進んでいる。
- 公民館及び各市民センターで実施している「ゆうゆう学級」「ゆうゆう・つつじ合同学級」を2講座以上重複して受講している受講者が13名いることが分かった。

受講者の重複（こまきみらい塾の塾生を除く）



| 受講数 | 人数 | 延人数 |
|-----|-------|-------|
| 8講座 | 1 | 8 |
| 7講座 | 2 | 14 |
| 6講座 | 4 | 24 |
| 5講座 | 6 | 30 |
| 4講座 | 15 | 60 |
| 3講座 | 54 | 162 |
| 2講座 | 306 | 612 |
| 1講座 | 1,963 | 1,963 |
| 計 | 2,351 | 2,873 |

【抽出された課題】

- 受講者の傾向などを把握し、改善につなげていくために、すべての課で受講者データを記録・保管する必要がある。
- ゆうゆう学級については、市公民館、東部市民センター、味岡市民センターでは、応募が多く、抽選が行われているが、複数のゆうゆう学級を受講している方がいることから、調整が必要である。

8. 受講料（概要）

- 受益者負担について、本市においては全庁的な基準がないことから、受益者負担の有無及び金額は各課の判断に委ねられており、担当課によって異なる。
- 講座を開催するために講師代等の直接経費がかかっているにもかかわらず、**受益者負担（受講料、材料費等）を求めている講座が41講座あった。**
- 受益者負担を求めている講座では、材料費・教材費・保険料は受講者が全額負担とし、受講料については生涯学習課の市民講座の受講料（150円／1人1回）を基準に算出するケースが多く見受けられた。
- 他市アンケートにおいては、県内市のうち4市において全庁的な受益者負担の方針または指針があるとの回答があった。

8. 受講料（受益者負担の方針の他市事例：変動制）

- 受益者負担の方針において、県内他市では、変動制と定額制の2種類見られた。
- 変動制では、①直接経費／定員、②必要経費の1／2を負担、③講師謝礼の1／2を負担の3パターンある。

変動制

| 市名 | 内容 |
|----|---|
| A市 | ①公益性が極めて高く、その効果が社会に貢献する事業、②会場等の状況により、参加者の特定が物理的に困難な事業、③市の政策上、特に必要と認められる事業に該当する事業以外は有料とする。開催に直接的に係る物件費（講師謝礼・消耗品・印刷製本費・会場使用料・バス借上料等）を募集定員で除した額を基準とする。 |
| B市 | 趣味・娯楽的要素が強く民間業者と競合するような講座及び教室については、原材料費とは別に、原則として必要経費の50%相当の受講料を徴収する。 |
| C市 | 講師料の1/2を全受講生で負担。ただし、H25.4より受講料・施設使用料の受益者負担の見直しを実施、かかった経費の1/2を全受講者で負担。見直しにより、上昇率が50%以上になる場合は、激減緩和措置として、50%に留めている。 |
| D市 | 講師謝礼÷募集人員×負担割合（50%）とし、原則1回200円とする。 |
| E市 | 講師謝礼の上限15,000円を1講座25名の参加で考えると1人あたり600円。これの半額とする。 |

8. 受講料（受益者負担の方針の他市事例：定額制）

- 本市では、市民講座は1回150円である。
- 定額制では、市によって、1回50円から500円までさまざまである。

| 定額制 | 市名 | 内容 |
|-----|----|---|
| | F市 | 文化活動推進課の定期講座の場合は、講座運営協力金として、1講座につき1年間1人 10回講座の場合は500円 、18回講座の場合は1,000円を負担していただいている。 |
| | G市 | 100円 （サマーアタック：高校生が開講する講座） |
| | H市 | ・市公民館で実施する市民講座の場合 100円/1回 ・生涯学習センターで実施する市民講座の場合 300円/1回 |
| | I市 | 講座日数1回につき 100円 |
| | J市 | 講座 5回以内で500円 、10回以内で1,000円 |
| | K市 | 講座の種別にもよる（例：受講料 200円 （大人）+材料費） |
| | L市 | 1回250円 講師謝礼、施設使用料、人件費等を勘案して算出 |
| | M市 | 1回300円 |
| | N市 | 教材・材料費・既設資料使用として、次の費用を自己負担金とした。 ・調理実習における材料費 ・調理実習の賄材料費500円のうち、米、調味料、高熱水費150円を除いた350円 |
| | O市 | ・ 500円/1回 ものづくり講座、料理講座など材料費等かかる講座は実費分を負担。 |

【抽出された課題】

- 受講料を徴収していない講座については、その理由を再検証し、必要に応じて見直しを行う必要がある。
- 公平性の観点から、全庁的な基準を設ける必要がある。
- 公平性の観点から、受講料積算の変動制の採用について検討する必要がある。

9. 市民へのPR方法（学びノート）

- 紙面では、「広報こまき」のほか、市の生涯学習に関する情報を「生涯学習情報ガイドこまなび」にまとめて、半年に一度全戸配布している。
- 紙面以外では、市ホームページや近隣で行われる様々な講座やイベント情報を閲覧できる情報提供サイト「学びノート」に講座等の情報を掲載している。

生涯学習情報ガイドこまなび

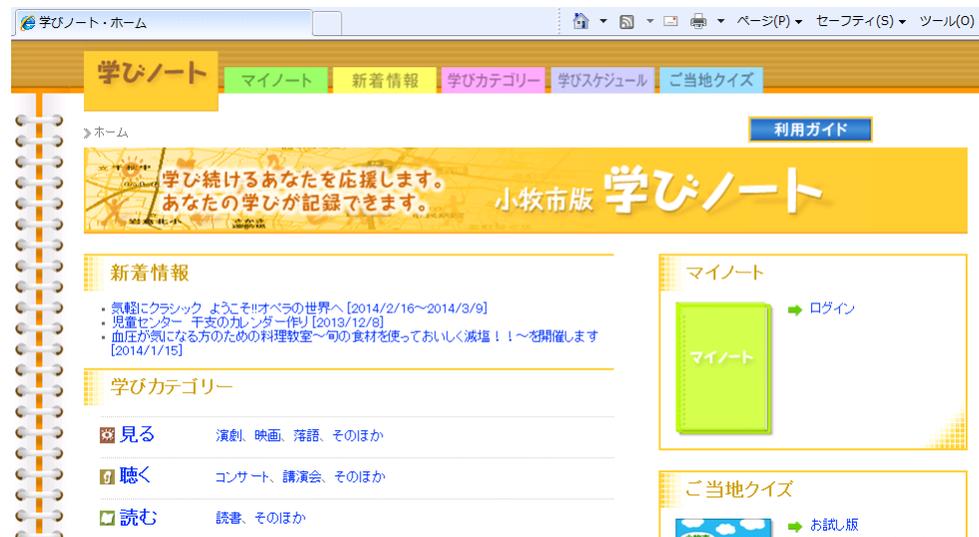


市民講座、パソコン講座などの各種講座・イベントのほか、特集、地元大学の公開講座、公民館で活動するグループの紹介、文化財さんぽなどを掲載。

（印刷製本費：325万円）

学びノート

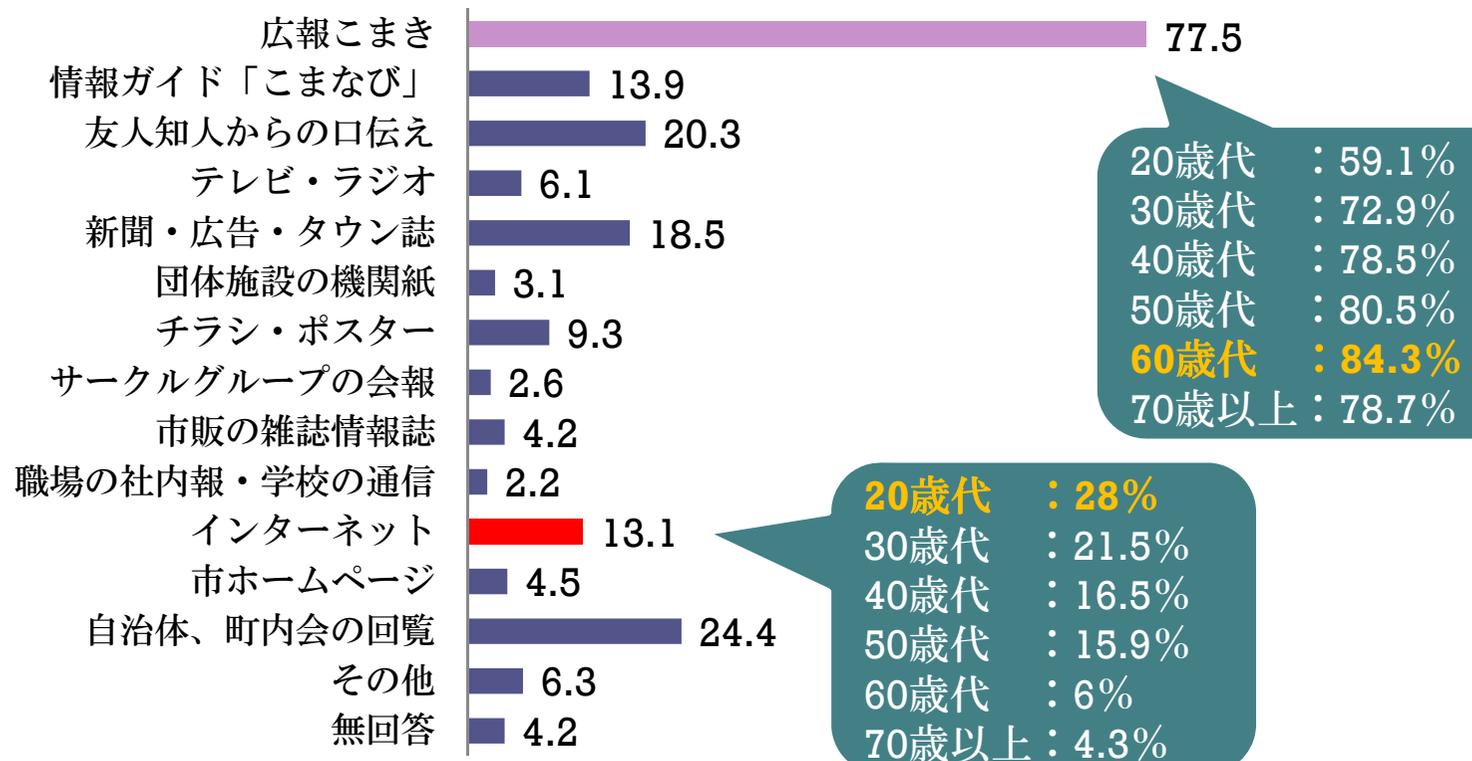
| | H21 | H22 | H23 | H24 |
|--------|---------|---------|---------|---------------|
| アクセス数 | 141,221 | 121,573 | 101,577 | 92,567 |
| 新規登録者数 | 112 | 51 | 23 | 23 (累計438) |



9. 市民へのPR方法（情報の入手方法）

- 平成23年11月の市民意識調査より、情報の入手方法については「広報こまき」が77.5%と圧倒的に他の方法より高い。
- 年代別の利用状況においては、広報こまき以外で生涯学習情報の入手方法では、60～69歳は「こまなび（21.3%）」、20～29歳は「インターネット（28.0%）」と世代間で媒体が異なる。

情報の入手方法



【抽出された課題】

- 「学びノート」については、講座受講者が「学びノート」を活用しているか調査するなど利用者の減少に対する分析を行い、見直しをする必要がある。

10. 課題と改善の方向性（講座全般）①

- 分析の結果、抽出された課題及び改善の方向性を下表に示す。このうち、複数課にわたる課題については、**平成26年度に組織横断的なプロジェクトチームを立ち上げ、講座のあり方に関する全庁的な指針を策定することが望ましい。**

| No | 分析項目 | 課題 | 改善の方向性 | 担当課 |
|----|------------------|--|--|-----|
| 1 | 市民一人あたりの講座にかかる経費 | 講座にかかる経費が高いこと自体が悪いということにはならないが、経費増加を抑制するため、新たな講座を開始する場合は、事業のスクラップ・アンド・ビルドに取り組む必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 新たな講座を開始する場合は、目的を明確にし、目的に対する適切な実施内容(プロセス)を選択する。 同じ目的で、複数の講座を実施している場合は、特に、その必要性を厳しく判断する。 事業開始前の費用対効果の検証においては、人件費も加えて判断する。 | 全課 |
| | | 講座開催には多くの人件費を要しているため、できるかぎり効率的な運営に努める必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 講座実施後、当初想定した成果が得られていない場合は、廃止を含め、すみやかに実施内容(プロセス)を見直す。 | 全課 |
| 2 | 開催期間 | 長期にわたって開催している講座が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 長期間実施している講座については、開始当時の目的とずれが生じていないか、開始当時より受講者数や成果が減少していないか確認し、必要な改善を行う。 | 全課 |
| | | 新たな講座を委託により開始する場合は、「民間委託の推進に関する指針」(平成25年1月策定)の基準に当てはめて判断する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 新たな講座を委託により開始する場合は、「民間委託の推進に関する指針」(平成25年1月策定)の基準に当てはめて判断する。 既存の講座においても、委託を活用したほうが直営に比べ費用対効果が高いと考えられる場合は委託化を進める。 | 全課 |

10. 課題と改善の方向性（講座全般）②

| No | 分析項目 | 課題 | 改善の方向性 | 担当課 |
|----|-------------|--|---|--------|
| 3 | 講座の分類化 | 他市と比較して、講座数・経費ともに全講座に占める男女共同参画の割合が大きいため、適正化を図る必要がある。詳細については、個別課題の分析（2.こまきみらい塾）に記述する。 | — | まなび創造館 |
| 4 | 講座・講師等の選定方法 | 講座選定にかかる業務量の削減に対する取組みが必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> 開催場所を所管する担当課がそれぞれ講座を企画・運営するのではなく、講座のテーマにあわせ、企画業務を集約し、全体としての業務量の削減を図る。 具体的には、生涯学習課、各市民センター、まなび創造館において、各担当職員が講座を企画立案しているが、企画立案業務の統合（例：こまなびサロン）や一部の企画を共有化するなど、部内全体として業務量等の削減を図る。 | 関係課 |
| | | 公民館活動として実施する講座事業については、各公民館がそれぞれ企画、実施をしているため、実施回数や内容にばらつきがあり、市全体としての計画性や公平性が考慮されていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習課の統括の下、全市的な各年度の方針や計画を作成し、事業を推進する。 | 生涯学習課 |

10. 課題と改善の方向性（講座全般）③

| No | 分析項目 | 課題 | 改善の方向性 | 担当課 |
|----|---------|---|---|---------------|
| 5 | 他部署との重複 | 他部署と重複を避けるために、部内での調整は図られていたが、部を越えた調整がされていないため、講座情報を一元化するなど、庁内の各部署で講座の内容が重複しない仕組みづくりが必要である。 また、調整の時期が、ほぼ講座内容が決まってからであるため、開催時期の調整等に限られる可能性がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講座情報ガイドの掲載情報を取りまとめている生涯学習課が中心となり、全庁の講座情報を一元化し、各課で情報共有する。 他部署との調整は、講座内容が決まる前に、「どこの課で、どの分野を実施する予定か」から調整する。 | 関係課 |
| 6 | 受講率 | 受講率の低い講座については、廃止を含め、実施内容の見直しが必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> 講座のあり方に関する全庁的な指針を策定し、受講率の低い講座の継続を防止する。 | 関係課 (PT) |
| | | 講座に興味を持った人がより手軽に講座に申し込みできるよう、手続きの簡素化を図る必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 他市の取組状況を参考として、申込時のメール対応、あいち電子申請・届出の活用を含め、手続きの簡素化を図る。 | 全課 |
| 7 | 受講者 | 受講者の傾向などを把握し、改善につなげていくために、全ての課で受講者データを記録・保管する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 講座を開催する際は、受講者データを記録・保管することとする。 受講者名簿の統一フォーマットを作成するなど、受講者情報の記録漏れを防ぐとともに、蓄積・入力・閲覧等の効率化を図る。 受講者名簿の作成が困難な講座は、アンケート調査等で、受講者の特性を整理する。 | 関係課 (PT) |
| | | ゆうゆう学級については、市公民館、東部市民センター、味岡市民センターでは、応募が多く、抽選が行われているが、複数のゆうゆう学級を受講している方がいることから、調整が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ゆうゆう学級及びつつじ学級については、一括で応募・抽選を行うなど、受講者の重複を防止する。 | 生涯学習課、各市民センター |

10. 抽出された課題と改善の方向性（講座全般）④

| No | 分析項目 | 課題 | 改善の方向性 | 担当課 |
|----|----------|---|--|-------------|
| 8 | 受講料 | 受講料を徴収していない講座については、その理由を再検証し、必要に応じて見直しを行う必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 講師料等の経費を要する講座においては、福祉や子育て支援など、公益性が高く、その効果が社会に貢献する講座や、市の政策上、特に必要と認められる講座以外は、徴収について検討をする。 | 関係課 |
| | | 公平性の観点から、全庁的な基準を設ける必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 受益者負担に関する全庁的な基準を策定する。 | 関係課 (PT) |
| | | 公平性の観点から、受講料積算の変動制の採用について検討する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 受講料積算の変動制の採用について調査・研究する。 | 関係課 (PT) |
| 9 | 市民へのPR方法 | 「学びノート」については、講座受講者が「学びノート」を活用しているか調査するなど利用者の減少に対する分析や費用対効果を検証し、見直しをする必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 「学びノート」を活用しているか、利用していない理由は何かなどを各講座の受講生にアンケート調査し、利用者の減少に対する分析を行う。 費用対効果の視点から、他システム(市ホームページ、平成27年度から実施が予定されている協働提案事業)への統合について検討を行う。 | 生涯学習課 |

IV 個別課題及び 個別講座の分析

1. 寿学園

- 寿学園は、昭和36年10月に老人の近代的教養の向上と心身の健康の保持を図り、もって老人の福祉を増進することを目的として設立され、その後、寿学園の適正な運営を図るため、昭和41年4月に小牧市立寿学園設置条例、昭和43年3月に小牧市立寿学園運営規則が施行されている。

寿学園の特色

- 学園に入園することができる対象者は、市内に居住する65歳以上の者。
- 平成24年度の生徒の平均年齢は、78.47歳。
- 寿学園に入園するには、各地区の団長に入園届を提出する。平成25年度の団長数は155人。
- 寿学園では、健康増進に関する講座、一般教養の向上に関する講座、時局認識に関する講座、その他レクリエーションなど、年間で11回の定例会と年1回の遠足を実施。
- 年11回の講座等は無料であり、生徒は遠足参加時のみ3,000円／人を負担する。
- 各地区から会場までの専用送迎バスが運行される。
- 寿学園には、園長1人、理事が若干名置かれることになっており、平成25年11月現在、12人の理事がいる。（主に市役所OB、教員OB、寿学園の団長経験者など）

平成24年度講座内容

| | 講師 | テーマ |
|-----|----------|--------------------------|
| 4月 | 小牧警察署 | 高齢者の交通安全について |
| 5月 | 小牧市長 | 小牧市政について |
| 6月 | 保健センター | おいしく食べて、元気に長生き人生を送りましょう！ |
| 7月 | 小牧市薬剤師会 | 薬と健康 |
| 8月 | 小牧日本舞踊協会 | 日本舞踊の発表 |
| | — | 遠足 |
| 10月 | 危機管理課 | 災害時の身の守り方や日ごろの備え |
| 11月 | 妙長寺住職 | 二度とない人生だから |
| 12月 | 健康運動指導士 | ヨーガに学ぶ健康法 |
| 1月 | 音楽鑑賞 | 楽団員4人による弦楽器演奏 |
| 2月 | 消費生活相談員 | 消費者トラブルを未然に防ごう |
| 3月 | 臨床心理士 | 自分と相手を大切にするコミュニケーション |

平成23年度外部評価結果

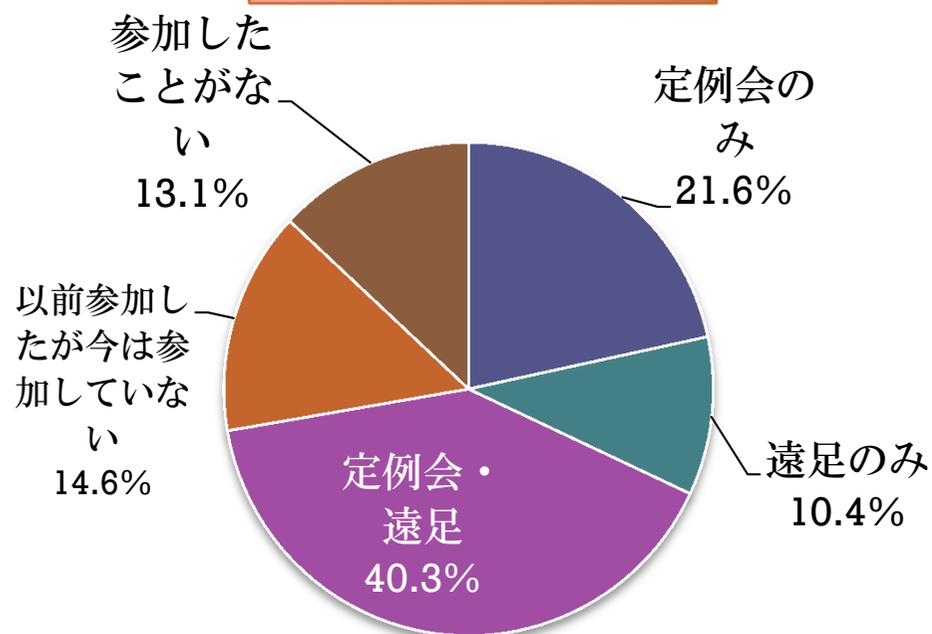
- 外部評価では、高齢者が年々、増加しているにもかかわらず、参加者は減っていることについて問題提起があり、外部評価委員からは「他事業（高齢者が参加できる講座開催事業）との統廃合も含めて、関連事業の全体的な再編が必要」「事業のマンネリ化、参加者の固定化があるのではないか。」「一部民間に委託するなど、プログラムの検討をしてはどうか。」など、事業の再構築に関する意見が多くあった。
- 市としては、まずは対象者のニーズを把握し、理事会に投げ掛けながら運営組織や事業のあり方を検討し、必要に応じて事業を再構築する必要があるとのことから、次のとおり、二次評価と今後の取組方針を決定している。

| | | |
|---------|------|--|
| | 評価結果 | B 改善が必要 |
| 二次評価 | 判定理由 | 高齢化が進む中で、市の施策として、介護予防や生きがいづくりは必要である。ただし、高齢者が年々、増加しているにもかかわらず、寿学園の生徒数は減っており、事業のあり方に改善が必要である。 |
| 今後の取組方針 | | <ul style="list-style-type: none"> ・寿学園は、高齢化が進む中で参加者が減少傾向であることから、参加者増加に向けて事業の再構築を含めあり方を見直す。 ・アンケートを実施し、魅力ある開催内容や運営方法、参加者の募集方法等を検討する。 |

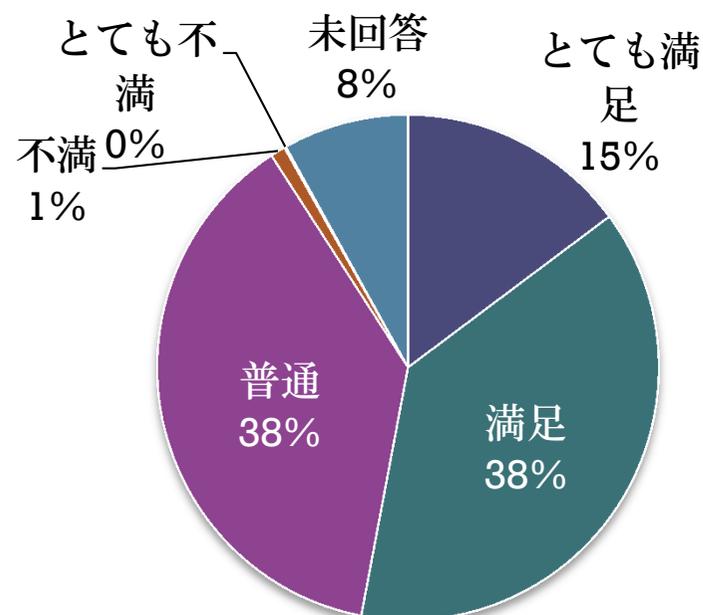
生徒対象アンケート結果①

- 寿学園生徒2,826人を対象に実施。（回収数1,135件、回収率40.2%）
- 平成23年度に実施したアンケートでは、生徒のうち、70歳～79歳が53%、80歳～89歳が39%であり、65歳～69歳の参加割合が低い傾向にあり、他の講座より平均年齢が高く、福祉的要素が大きい。
- 寿学園への参加については、生徒でも27.7%が参加していない（参加したことがない13.1%、今は参加していない14.6%）。
- 参加していない理由については、「仕事や家事がある」、「他に行くところがある」、「体調が思わしくない」が多く、講座の内容・質とは関係なく、生徒自身の都合や健康上の理由である。
- 生徒の満足度は「とても満足」と「満足」が全体の過半数を超えている。

参加実態



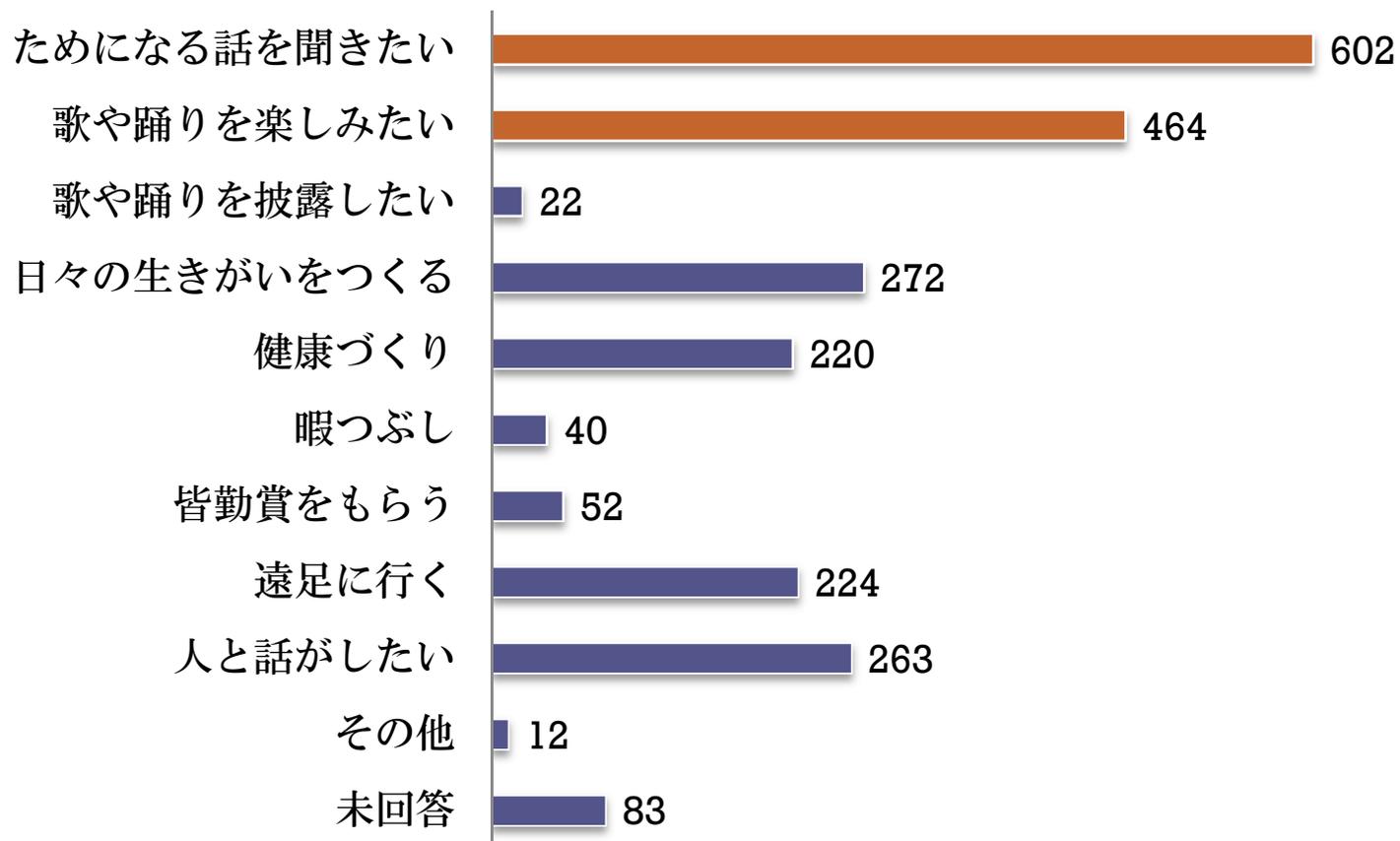
生徒の満足度



生徒対象アンケート結果②

- 寿学園に参加する目的としては、「ためになる話を聞きたい」「歌や踊りを楽しみたい」「遠足に行く」の寿学園の内容に直結する回答が多い一方で、「日々の生きがいをつくる」「人と話がしたい」「健康づくり」など、学園の内容以外のことを目的としている人もいることが分かる。

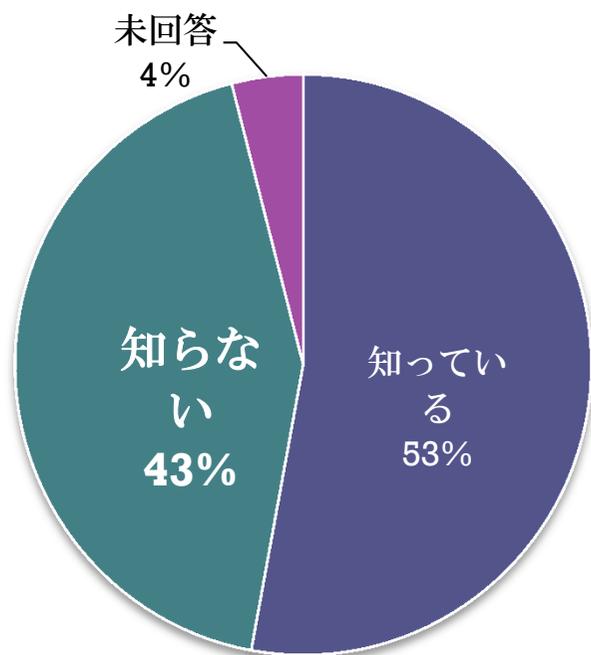
寿学園に参加している目的



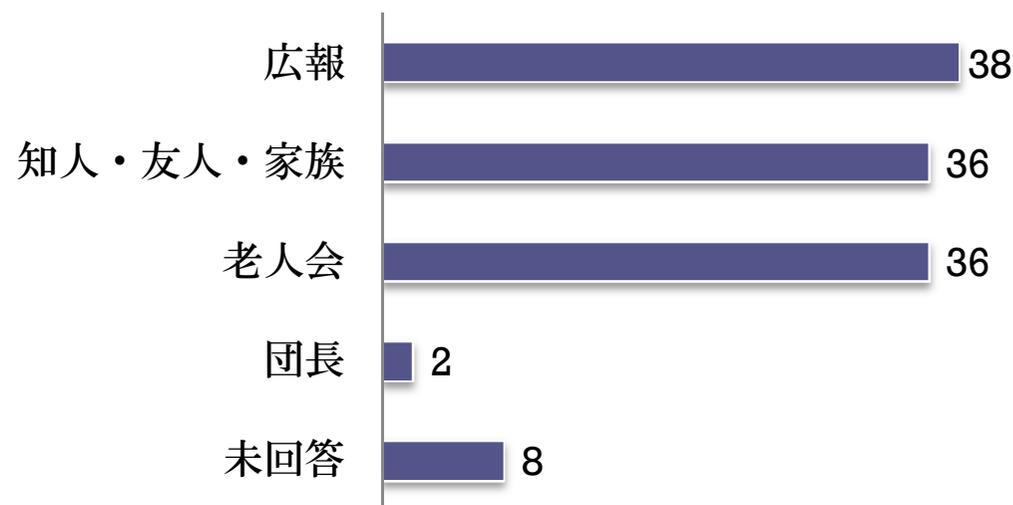
一般対象アンケート結果①

- 老人福祉センター・まなび創造館等の65歳以上の利用者225人を対象に実施。
- 「寿学園を知っていますか」という質問に対して、**97人(43.1%)**が知らないと回答したことから、認知度が低いことが分かる。
- 寿学園を知っている人が学園を知ったきっかけは、「広報」「知人・友人・家族」「老人会」が多く、団長を通じて寿学園を知った人はほとんどいない。

寿学園の認知度



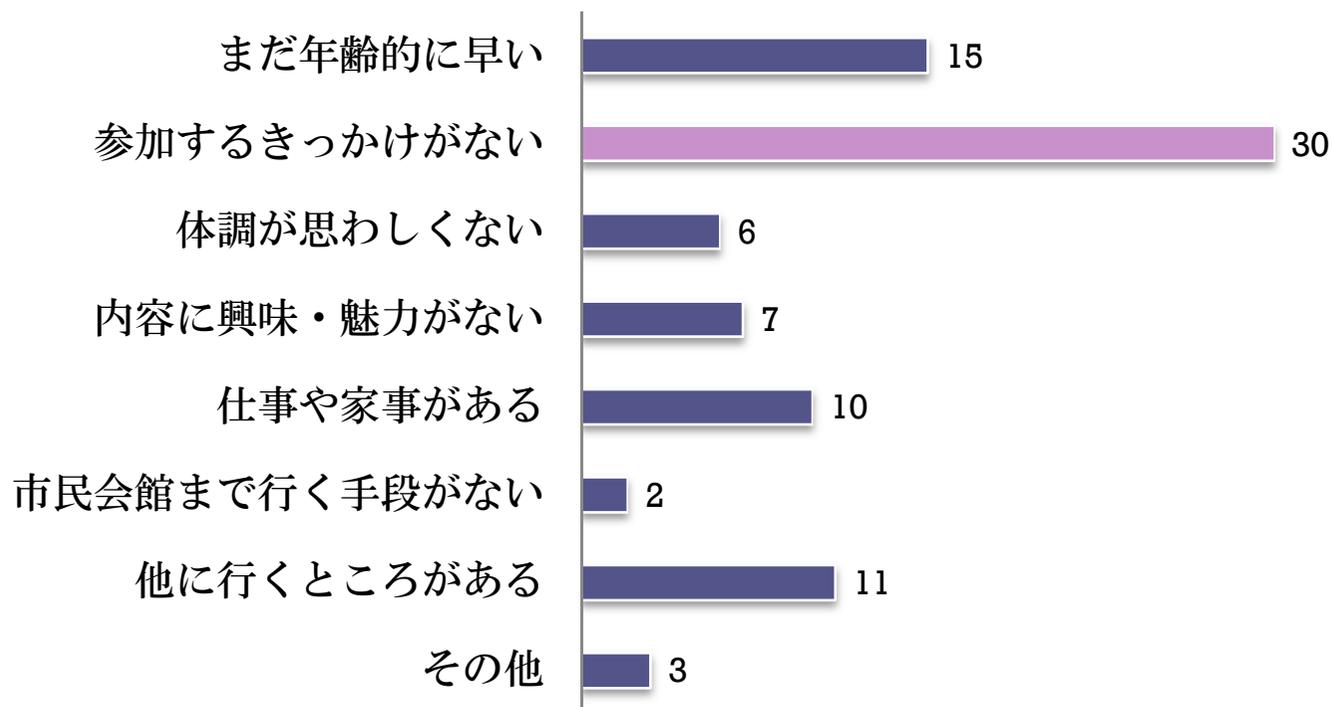
寿学園を知ったきっかけ



一般対象アンケート結果②

- 「参加していない理由」として、「参加するきっかけがない」が最も多く、次に「まだ年齢的に早い」が多かった。

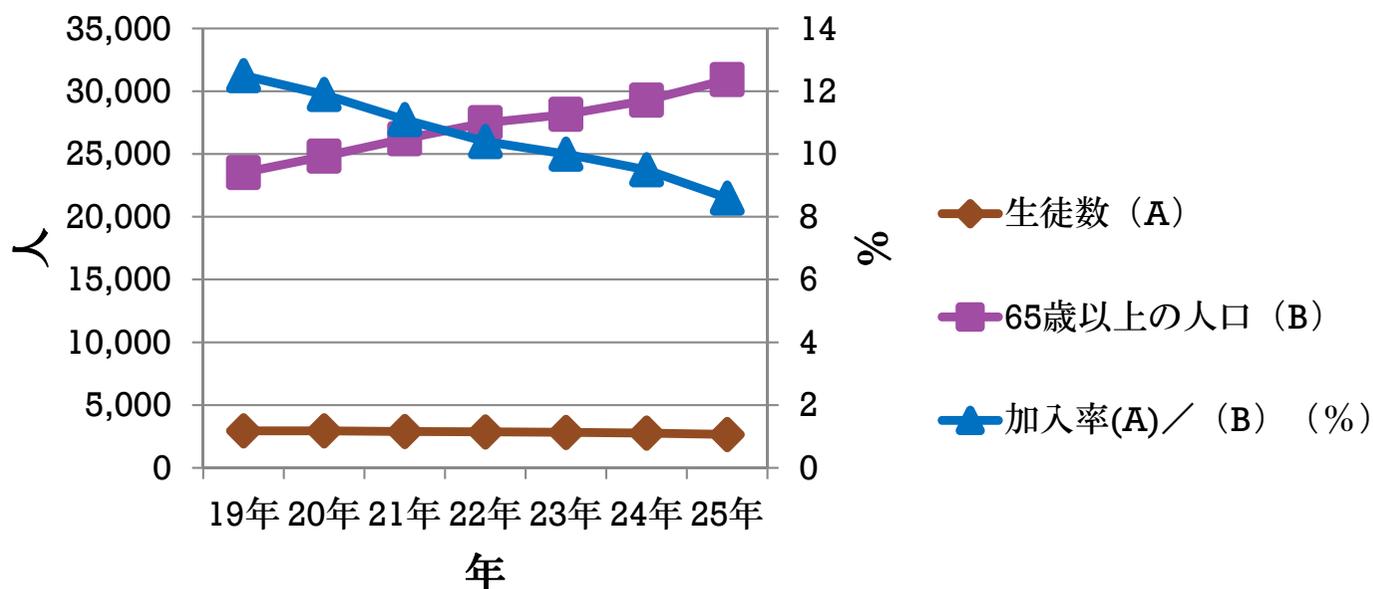
参加していない理由



生徒数・加入率の推移

- 寿学園の生徒数及び加入率は、65歳以上の人口が増加しているにもかかわらず、生徒数、加入率ともに減少傾向にある。特に、加入率は8.6%しかない。
- 代表行事である遠足の出席者数も、平成22年度が942人であったのに対し、平成24年度は868人と大きく減少している。
- 年1回でも参加している実質の生徒数は平成23年度のアンケート調査の結果72.3%であることから、25年度の生徒数2,658人のうち、実際に定例会等に参加している人数は1,921人と推計される。その場合の平成25年度の対象者に占める割合は、6.2%となる。

| | 19年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 生徒数 | 2,947 | 2,948 | 2,899 | 2,865 | 2,826 | 2,769 | 2,658 |
| 65歳以上の人口 | 23,523 | 24,829 | 26,219 | 27,490 | 28,158 | 29,285 | 30,924 |
| 加入率 (%) | 12.5 | 11.9 | 11.1 | 10.4 | 10 | 9.5 | 8.6 |



入園者・退園者数・地区別生徒数

- 各年度の名簿は担当課において団長経由で作成されているものの、異動状況はその都度すべて把握しているものではなかったため、平成24年度生徒名簿と25年度生徒名簿を突合したところ、25年度に新たに入園したのは227人、退園したのは338人であった。
- 寿学園の生徒と65歳以上人口の居住分布を比較すると、人口比に比べ、小牧地区の生徒が多く、篠岡地区の生徒が少ない。

| 退園者数 | 入園者数 | 差し引き |
|------|------|-------|
| 338人 | 227人 | -111人 |

| | 小牧地区 | 味岡地区 | 篠岡地区 | 北里地区 | 市外 | 合計 |
|----------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|----|---------|
| 生徒の居住分布 | 48% | 24% | 14% | 14% | 0% | — |
| 65歳以上人口 (H24.4現在) | 10,976人 37.5% | 7,516人 25.7% | 6,302人 21.5% | 4,491人 15.3% | | 29,285人 |

生徒数・加入率の推計

- 寿学園が設立した翌年の昭和37年は、65歳以上の老年人口の構成比5.9%であったが、現在（平成25年）は20.7%と、約3.5倍となっている。
- 総合計画新基本計画の策定に当たって行われた将来人口推計では、平成30年の65歳以上の老年人口は、37,138人（構成比24.5%）と推計されている。
- 生徒数において、平成20～25年度の減少率（平均97.94%）が続くと仮定した場合、平成30年度の生徒数は2,395人、実質生徒数は1,731人、**加入率は4.7%**と推計される。

昭和37年の人口構成

| | 階層別人口（構成比） | | | 総人口 |
|-------|--------------------|--------------------|------------------|---------|
| | 0～14歳 | 15～64歳 | 65歳以上 | |
| 昭和37年 | 12,689人 (25.3%) | 34,486人 (68.8%) | 2,950人 (5.9%) | 50,125人 |

将来人口の推計結果

| | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 153,574 | 153,185 | 152,986 | 152,624 | 152,224 | 151,791 |
| 65歳以上の人口 | 31,720 | 33,400 | 34,697 | 35,657 | 36,464 | 37,138 |
| 構成比 | 20.7% | 21.8% | 22.7% | 23.4% | 24.0% | 24.5% |

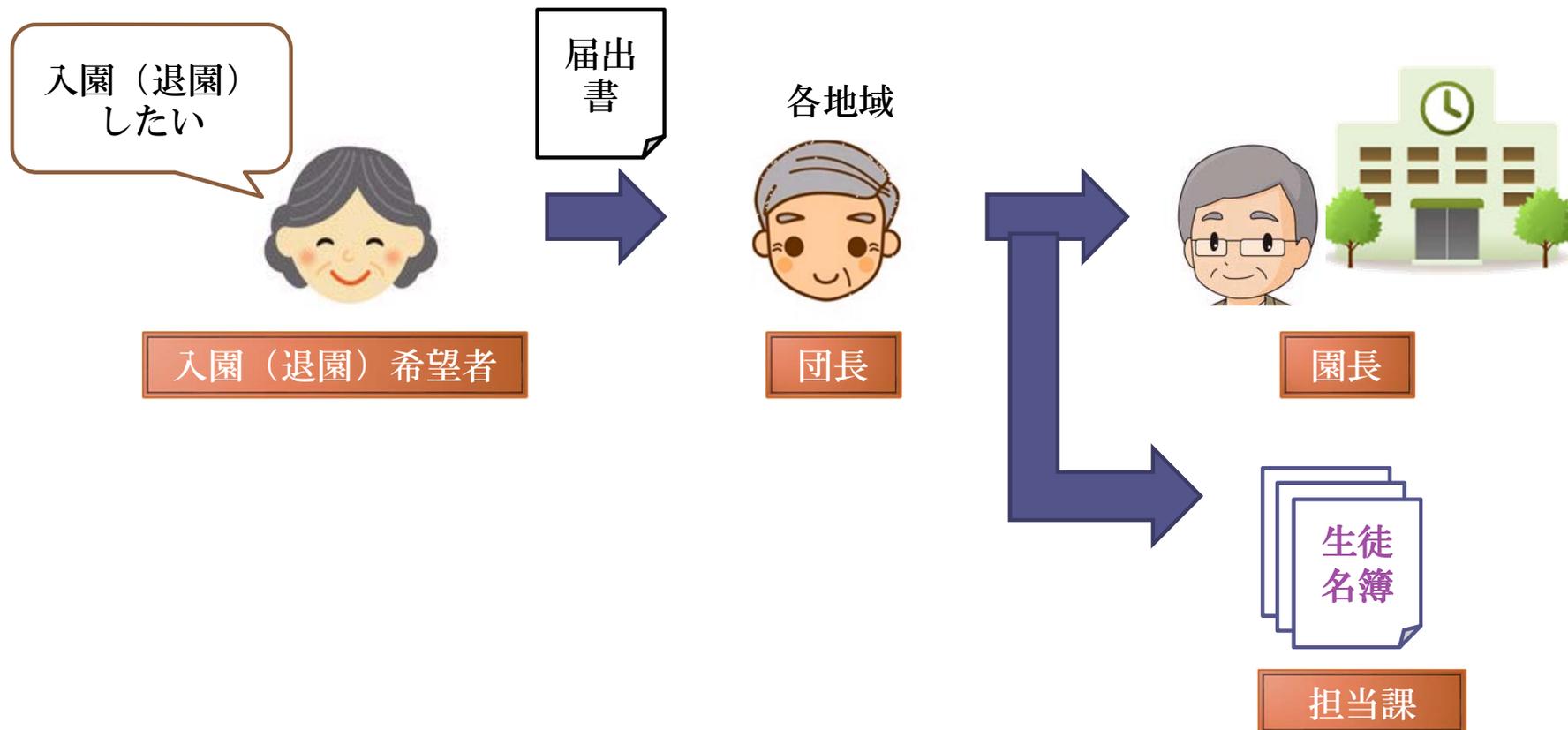
10.8倍 (20.7% → 2.2%)
3.5倍 (5.9% → 2.2%)

生徒数の推移

| | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 30年推計 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 生徒数 | 2,948 | 2,899 | 2,865 | 2,826 | 2,769 | 2,658 | 2,395 |
| 前年度比 | — | 98.3% | 98.8% | 98.6% | 98.0% | 96.0% | 97.94%の5乗 |

寿学園の入退園・生徒証

- 入園及び退園の手続きは、「小牧市立寿学園運営規則」に定められている。
- 生徒数については、「入園・退園届出書」を提出状況や団長が年度末に行う所属団員の状況確認に基づいて、把握・管理している。
- 「生徒証」の裏面は出席表となっており、出席表の記録で1年間皆勤だった生徒には皆勤賞としてタオルを贈呈している。（平成24年度の皆勤賞：185人、生徒の6.7%）



団長

- 団長は老人クラブの役員を兼ねている人が多い。
- 団長は、無償で生徒へのチラシ配布や入園・退園の窓口としての役割を担っているが、団長の後継者を見つけることが難しい状況である。
- 現在、1人の団長が担当する生徒数は平均すると17.3人であるが、後継者が不足していることから、平均年齢が上がってきている。そのため、将来的には団長に頼らない形態を検討していく必要がある。

団長

各地域（155人）
平均年齢（78歳）

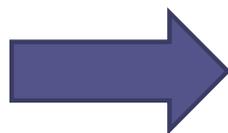


平均年齢の上昇
後継者不足

チラシ配布

入退園のとりまとめ

入園者の募集



生徒

平均17.1人/団



PR方法

- 現在の生徒募集については、老人クラブや団長に頼っているところがあるが、次のとおり、平成25年度時点において市ホームページの内容は非常に乏しく、既述のアンケート結果においても寿学園のことを知らない人が43%であることから、老人クラブ未加入者への周知が十分であるとは言えない。

小牧市立寿学園

ID番号 K1116

教養の向上と心身の健康の保持を図るため講演、余興を毎月1回(原則として第3金曜日)市民会館で実施し、バスで各地区ごとに送迎しています。



対象者

65歳以上の方

入園申込

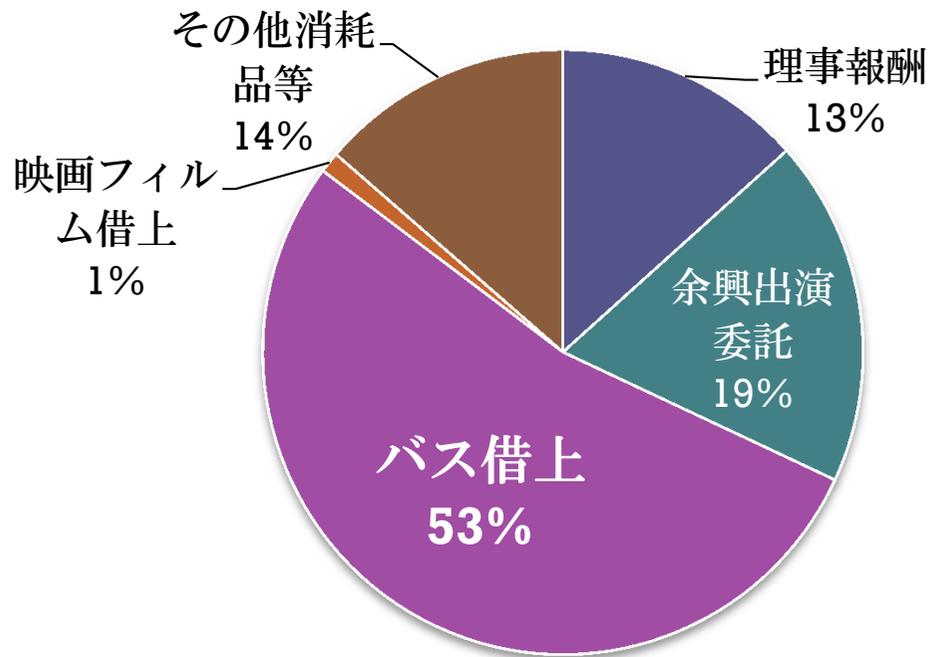
各地区の団長まで

団長がわからない場合は、長寿介護課にお問い合わせください。

コスト

- 寿学園にかかる経費は、平成24年度で8,505千円（事務職員の人件費を含まない）であり、およそ半分がバスの借上代であり、生徒の45%がバス送迎を利用している。
- 参加生徒一人にかかるコスト（人件費含む）は、**4,783円**である。

直接経費8,505千円の内訳
（人件費含むと9,571千円）



参加生徒一人にかかるコスト

- 生徒のうち実質参加している人数：72.3%
- 平成24年度の生徒数：2,769人
- 実際に定例会等に参加している人数
 $2,769人 \times 0.723 = 2,001人$
- 参加生徒1人あたりにかかる経費
 $9,571千円 \div 2,001人 = \underline{4,783円}$

分析結果

- 平成24年度の生徒の平均年齢は78.47歳であり、他の講座より平均年齢が高く、福祉的要素が大きいといえる。
- 生徒を対象としたアンケートの結果、27.7%の生徒が1回も寿学園に参加していない。（参加率72.3%）。参加していない生徒の不参加理由は、生徒自信の都合や健康上の理由である。
- 一般アンケートにおいて、43.1%が寿学園を知らないと回答（認知度が低い）。
- 一般アンケートにおいて、寿学園に参加していない理由は、「参加するきっかけがない」が最も多い。
- 65歳以上の人口が増加しているにも関わらず、寿学園の生徒数、加入率（生徒数/65歳以上人口）ともに減少傾向にある。
- 平成25年度の生徒数は2,658人、加入率は8.6%。
- 年1回でも参加している実質の生徒数は、72.3%であることから、実際に定例会等に参加している25年度の実質人数は1,921人、実質加入率は、6.2%となる。
- 65歳以上の地区別人口に比べ、市民会館に近い小牧地区の参加者が多く、市民会館から遠い篠岡地区の参加者が低い。
- 平成25年の老年人口は、31,720人であり、寿学園が設立した翌年の昭和37年の2,950人の10.7倍。
- 5年後の平成30年には、さらに65歳以上の老年人口が、2,652人増加する。
- 寿学園の入園・退園の手続きについては、「小牧市立寿学園運営規則」に定められているが、規則改正をせずに様式等が変更されていた。
- 現在、1人の団長が担当する生徒数は平均すると17.1人であるが、後継者が不足していることから、155人の団長の平均年齢は、78.2歳と高齢になってきている。
- 長寿介護課において、各年度の入園者数、退園者数の推移や退園者の理由など、個々の異動状況は整理されていなかった。
- 寿学園のPRについては、市ホームページの内容が非常に乏しいなど、老人クラブ未加入者への周知が十分であるとは言えない。
- 参加生徒1人あたりにかかる経費は、4,783円と推計される。
- 将来的に事業の見直しを進め、参加者が多くなった場合は、会場の問題から現状の寿学園の存続ができなくなる。

課題と改善の方向性

短期的課題

- 寿学園の認知度が低く、十分なPRがされていないことから、市としてのPRを充実する必要がある。
- 現在の運用にあわせ、関係規則を改正する必要がある。
- 団長の高齢化が進んでいるため、将来的には団長に頼らない形態を検討していく必要がある。例えば、入園・退園について、団長経由に限らず市役所での受付を可とする、「入園・退園届出書」を廃止するなど、入園しやすい状況をつくるとともに、団長及び生徒の手間を軽減すべきである。
- 退園する生徒の退園理由を整理・分析し、寿学園の改善につなげる必要がある。

長期的課題

- 地区間の均衡を図るため、市内4地区（市民会館及び各市民センター）での開催や、地域協議会の設立も視野に入れて、各地区の自主開催形式などを検討していく必要がある。

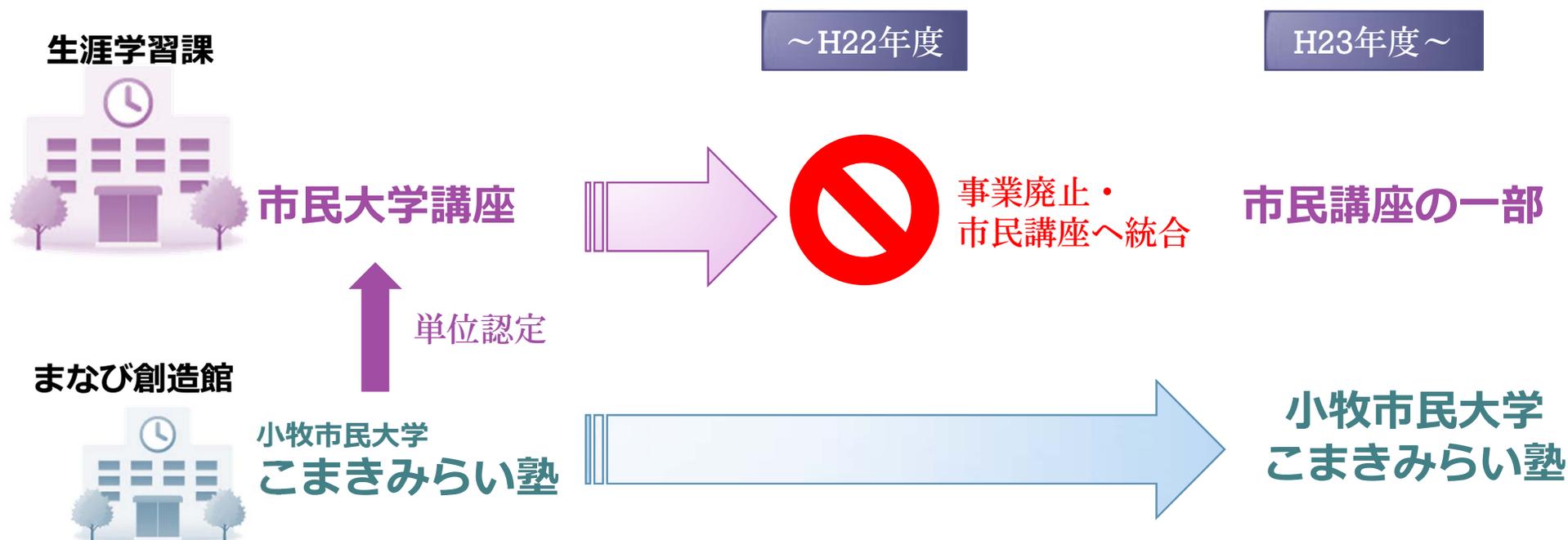
2. 市民大学こまきみらい塾

- こまきみらい塾の学習過程は、大きく分けて以下の5つであり、年間の講座計画は、まなび創造館の職員が小牧市民大学こまきみらい塾運営委員会の意見を参考に策定している。
- 運営委員会は、小牧市民大学こまきみらい塾の円滑な運営を図り、みらい塾の運営方針及び学習過程について研究検討するために設置された委員会で、市教育委員会が委嘱する委員10名以内（任期：2年）で構成されている。

| 学習課程 | 内容 |
|------------|--|
| 教養課程 | 生活に密着したさまざまな問題を幅広く学習する。過半数の出席（講座ごと）により、出席に応じて1回（原則2時間）1単位認定する |
| 専門課程 | 教養課程での学習を基礎に、年間15回（基本）のゼミナール形式で学習。少人数で意見を述べ合い、レポートを提出する。3分の2以上の出席とレポート提出により修了とし、5単位認定する。 |
| テーマ学習コース | 社会的な課題に取り組むためのコースであり、過半数以上の出席により1回1単位認定する。 |
| 公開講座 | 入塾式・修了式に講演会を2回開催し、1回1単位認定する。 |
| ステップアップコース | 3年に1回、こまきみらい塾卒業生を対象とし、地域アドバイザーとして養成する。 |

市民大学としての位置づけ

- 本市では、過去に生涯学習課が「市民大学講座開催事業」のなかで、市内及び近隣大学と連携した講座を開設しており、こまきみらい塾を受講すると生涯学習課の市民大学講座の単位として認定されることから、こまきみらい塾にも「小牧市民大学」の名称がつけられていた。
- 平成22年度事務事業評価において、市民大学講座を市民講座の一部として事業のあり方を見直していく必要があるとの評価結果を受け、市民大学講座開催事業の予算を市民講座開催事業として一体化することとなった。生涯学習課においては平成23年度に市民大学の枠組みを廃止したが、こまきみらい塾にのみ「市民大学」の枠組みが残り、現在に至っている。



成果の検証

- こまきみらい塾については、一部の卒業生が、男女共同参画普及員研修会、ワイワイっとまつり、公民館のゆうゆう学級、3あい事業、出前講座を実施したりしており、卒業後に地域活動や男女共同参画の推進に寄与している。しかし、そうした活動にまで発展する塾生は、非常に少ない。
- 「小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅡ」（平成16年3月）には、施策の方向に「男女共同参画に関する学習機会の充実」との位置づけがあるが、こまきみらい塾を通して、どの程度「男女共同参画の推進」が図られてきたのかを測る指標が設定されていないことから、12年間の成果を図ることができない状況となっている。

小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅡ

目標Ⅲ 男女共同参画社会の形成に向けた意識改革・教育の推進

2. 家庭・学校・地域における平等教育の推進

施策の方向

②男女共同参画に関する学習機会の充実

市民が、生涯学習を通じて、男女共同参画について学習できるよう、学習機会や学習内容の充実を図ります。

男女の参加意欲を高めるような、参加体験型プログラムを取り入れるなど、学習への参加を促します。

乳幼児健診時の相談、指導を通じて、親が家庭において子どもの個性を尊重した教育が実践できるよう支援します。

ボランティアグループや社会教育関係団体等の学習活動に、男女が積極的に参加できるよう啓発します。

指標なし

平成23年度外部評価結果

- 外部評価においては、塾生数が目標数を下回って減少傾向であることや、受講者の平均年齢が63歳であることから、「男女共同参画」をベースとした事業展開にこだわらず、誰もがしやすい講座にすべきであるという意見や、65歳以上を対象としている寿学園や生涯学習課が実施している講座など、他課の類似事業との連携、統合等を進めるべきであるという意見が多く出された。
- 市としては、男女共同参画を主とした事業からの転換や他課の類似事業との統廃合を含め、**事業のあり方を抜本的に見直す必要があると判断し**、次のとおり、二次評価と今後の取組方針を決定している。

| | | |
|---------|--|--|
| 二次評価 | 評価結果 | B 改善が必要 |
| | 判定理由 | 男女問わず幅広い年齢層が参加できる魅力的なプログラムの提供に努める必要がある。また、他課の類似事業との統廃合について検討を進める必要がある。 |
| 今後の取組方針 | 男女共同参画を主とした事業からの転換や他課の類似事業との統廃合を含め、事業のあり方を抜本的に見直す。 | |

受講者①

- こまきみらい塾は、市内在住・在学・在勤の18歳以上の方を対象とし、年間20講座以上を開催している。
- 平成25年度時点において、累計で塾生は1,176人、卒業生は86人である。
- 平成24年、25年と過去最低の88人**である。
- 事務事業評価において塾生数の目標を平成24年度までは120人、平成25年度は100人としており、**例年、目標値を下回る生徒数**となっている。
- 卒業生及び新規塾生数は開講初期に比べ、近年少ない状況**が続いている。
- 聴講生については、近年は200人前後で推移している。

| | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | 延べ 人数 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----------|
| 塾生 | 90 | 93 | 91 | 95 | 116 | 102 | 97 | 108 | 103 | 105 | 88 | 88 | 1,176 |
| （男性） | 4 | 4 | 1 | 11 | 24 | 18 | 14 | 25 | 26 | 24 | 23 | 27 | 201 |
| （女性） | 86 | 89 | 90 | 84 | 92 | 84 | 83 | 83 | 77 | 81 | 65 | 61 | 975 |
| 新規塾生 | 90 | 34 | 30 | 41 | 49 | 19 | 22 | 33 | 24 | 20 | 14 | 18 | 394 |
| 卒業生 | — | — | 29 | 7 | 5 | 9 | 13 | 7 | 2 | 9 | 5 | 5 | 86 |
| （男性） | | | 1 | 0 | 0 | 3 | 4 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 16 |
| （女性） | | | 28 | 7 | 5 | 6 | 9 | 6 | 1 | 7 | 3 | 3 | 75 |
| 奨励賞 | — | — | 1 | 0 | 3 | 7 | 5 | 11 | 6 | 10 | 5 | 2 | 50 |

受講者②

- 塾生及び聴講生の女性割合（延べ人数）は82%及び87%を占めているが、開講初期に比べ男性の受講者が増加している。
- 開設から12年間の塾生数の累計1,176人、純塾生数は394人であることから、**塾生が平均して3年間**、こまきみらい塾に在籍していると推察される。
- 12年間の純塾生数は394人に対して卒業生は86人であることから、**卒業する割合が、約21.8%と低く、卒業に対する塾生の意識が低いことが伺える。**
- 平均年齢は66歳であり、30代までの塾生はおらず、40代も1人のみである。**男女共同参画を教育、啓発する対象としては偏りがあり、効果が低いことが伺える。**

塾生



人数

88人(H24)

受講料

年間5,000円
(全講座受講可)

平均年齢

66歳 (若い世代がない)

聴講生



171人(H24)

1講座1,000円※
(受けたい講座のみ受講可)
※算出根拠：200円/回×5回

不明 (若い世代もいる)

講座内容

- こまきみらい塾は、女性と男性の意識改革につながる学習と人材育成を目的としているが、現実的には男女共同参画のみを主な内容とする講座だけ開催することは困難であり、男女共同参画の視点を持ちつつも、**一般教養や趣味の内容が大半を占めている。**
- 教養課程の必修の4講座のうち、男女共同参画を強く意識した講座の受講率が低く、一方で、一般教養や趣味の講座の受講率が高いことから、**塾生の男女共同参画社会の形成に向けた学習の場という意識は決して高くない。**

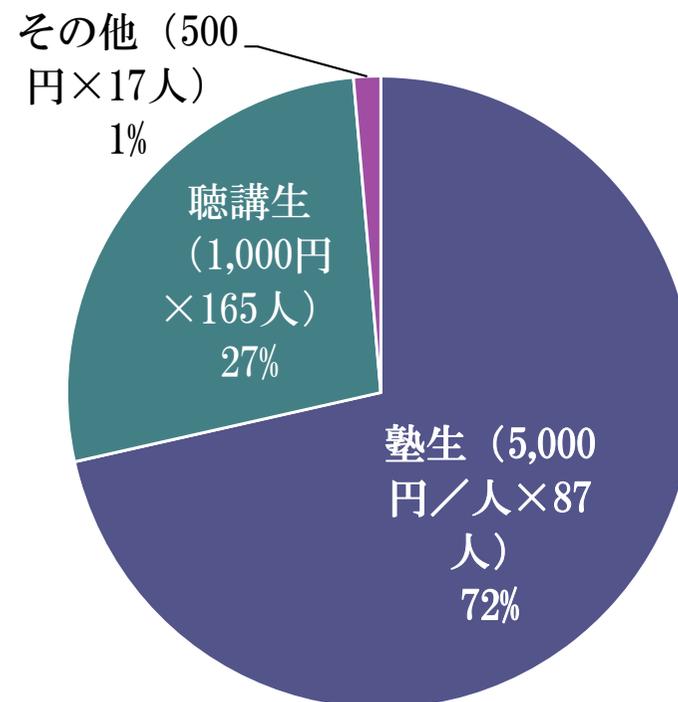
| | 講座名 | 受講率 | | 講座名 | 受講率 |
|--|----------------------|--|------|--------------------------|-----------|
| 公開講座 | 父親を楽しもう♪みんなのハッピーバランス | 35 | 教養過程 | 女性と福祉（必修） | 45 |
| | 人の絆～家族の大切さ～ | 114 | | 古典と言語をめぐって | 50 |
| 今、「方丈記」を読む | 104 | 時事問題を知るための講座② | | 70 | |
| 女性と仏教—美術に見るいのりの表現— | 105 | 日本の古典とはどういうものか—日本文化の二重性— | | 100 | |
| 『平家物語』—平清盛はどのように描かれたか— | 65 | 日本の政治を学ぶ | | 103 | |
| 職場・家庭・日常で役立つ！！知って得する ほめ方・叱り方・教え方のコツ | 53 | ジェンダー・フリーにつながる社会の課題 —今、私たちにできること—（必修） | | 50 | |
| 各国映画に見る女性の生き方 | 84 | 人生を楽しくするセルフデザイン法 | | 88 | |
| 人物にたどる日本女性史（必修） | 108 | 免疫力UPでココロもカラダもほっこり～私のいやしの時間～ | | 50 | |
| 時事問題を知るための講座① | 76 | 信頼と幸せをつかむ心理学～悩んでいるのはあなただけではありません～ | | 105 | |
| 幸福のレシピ（必修） | 95 | 専門過程 | | 地域の課題に取り組む—地域リーダーになるために— | 45 |
| 歌舞伎の世界への誘い | 95 | テーマ | | 災害に備える | 55 |
| からくり人形の不思議 | 35 | 特別 | | 災害から命を守る～いざというときに備えて～ | 65 |
| 知って納得！やさしいマネー講座 | 100 | | | 今、知っておきたい身体のこと | 58 |
| 仕舞い支度はお済みでしょうか？ | 108 | | | | |
| 話し方の極意～何をどう話すか～ | 50 | | | | |

受講料

- こまきみらい塾の受講料は、塾生は年間5,000円／人、聴講生（塾生ではない受講者）、1人1講座あたり1,000円である。
- 受講料1,000円については、平成14年度の開講以来、生涯学習課の市民講座150円／回を踏まえ、こまきみらい塾の講師は大学の教授などであり、レベルが高い内容を受講できると考え、200円／回×5回を算出根拠としている。

歳入（直接経費）の内訳

| 内容 | 決算額 |
|------------------|----------|
| 塾生（5,000円／人×87人） | 435,000円 |
| 聴講生（1,000円×165人） | 165,000円 |
| その他（500円×17人） | 8,500円 |
| 合計 | 608,500円 |

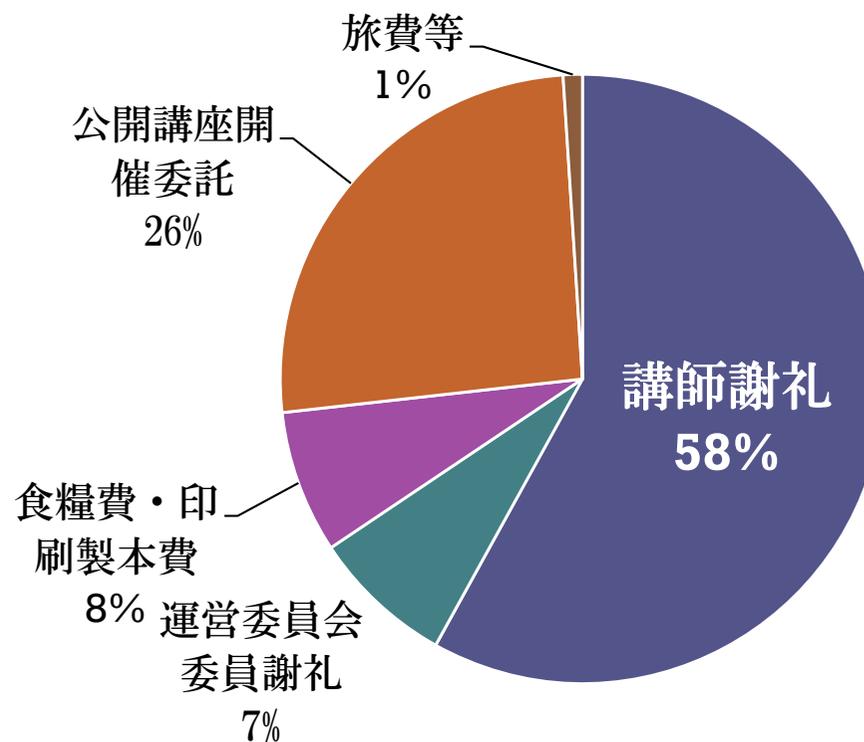


コスト（年間）

- こまきみらい塾にかかる経費は、平成24年度で3,879千円であり、58%が講師謝礼代である。また、こまきみらい塾にかかる事務職員事務量がかなりあり、人件費が4,950千円と高額になっている。

歳出（直接経費）の内訳

| 内容 | | 決算額 |
|------|-----------|---------|
| 直接経費 | 講師謝礼 | 2,253千円 |
| | 運営委員会委員謝礼 | 294千円 |
| | 食糧費・印刷製本費 | 294千円 |
| | 公開講座開催委託 | 998千円 |
| | 旅費等 | 40千円 |
| 計 | | 3,879千円 |
| 人件費 | | 4,950千円 |
| 合計 | | 8,829千円 |



コスト（塾生一人あたり）

- 平成25年度の市民大学こまきみらい塾運営事業の事務事業評価シートのコスト欄を確認すると、毎年、直接経費と人件費の合計で約900万円の経費を使っている。
- 受講料は毎年70万円程度あるとすると、事業開始から、12年間で、毎年約830万円の経費がかかっていることになり、**12年間で約1億円の支出**となる。
- 聴講生の受講や公開講座の開催はあるものの、本事業の主たる対象が塾生と考え、9,960万円の経費を12年間の純塾生数は394人で割ると、**純塾生一人あたり約25万円の経費がかかっている**ことになる。
- 一方、塾生の受講料は、年間5,000円であり、平均在籍年数の3年を掛けても、15,000円の負担ということになる。

$(費用900万円/年 - 受講料70万円/年) \times 12カ年 = 9,960万円$

$9,960万円 \div 純塾生数394人 = 252,791円$

他の講座と比べて非常に
コストがかかっている

分析結果

- こまきみらい塾を通して、どの程度「男女共同参画の推進」が図られてきたのかを測る指標が設定されていないことから、12年間の成果を図ることができない。
- 卒業生及び新規塾生数は開講初期に比べ、近年少ない状況が続いており、平成24年、25年と過去最低の88人である。
- 塾生の平均在籍年数は3年間。
- 12年間の純塾生数は394人に対して卒業生は86人であることから、卒業する割合が、約21.8%と低く、卒業に対する塾生の意識が低い。
- 塾生の平均年齢も66歳と高い。男女共同参画を教育、啓発する対象としては偏りがあり、効果が低い。
- 講座内容は、男女共同参画の視点を持ちつつも、一般教養や趣味の内容が多い。
- 男女共同参画を強く意識した講座の受講率が低く、一方で、一般教養や趣味の講座の受講率が高いことから、塾生の男女共同参画社会の形成に向けた学習の場という意識は決して高くない
- 毎年の経費を約900万円、受講料収入を約70万円とすると、事業開始から12年間で、約9,960万円の支出となる。
- 9,960万円の経費を12年間の純塾生数は394人で割ると、純塾生1人あたり約25万円の経費がかかっていることになる。

課題と改善の方向性

こまきみらい塾は、男女共同参画社会の形成のためのものとした場合、その効果は低く、経費もかけすぎである。そのため、こまきみらい塾については、廃止を含め、抜本的に見直す必要がある。以下に見直し案を記載する。

- こまきみらい塾のうち、真に男女共同参画の講座を抜き出して実施し、残りは生涯学習の講座に位置づける。
- 生涯学習の講座に位置づける場合は、市民が参加しやすいように、大学形式でなく、市民講座へ切り換え、生涯学習課と連携を図り実施する。

3. 個別講座

- 18課の182講座のうち、現状整理の段階で、講座開催の目的や内容に問題がない判断した講座や平成24年度で終了する講座など分析の必要性の低い講座を除いた165講座を対象として、各講座の課題の抽出を行った。

| 分析の視点 | 分析項目 |
|--------|--|
| 講座の必要性 | 他部署と重複状況、民間との競合状況 |
| 講座の有効性 | 対事務事業の目的と講座内容との妥当性 (誰を対象にどういう状態にしたいのか) 受講率、受講者の男女比・平均年齢・居住分布 |
| 講座の効率性 | 講座開催経費、受益者負担額、受益者負担率、受講者1人にかかる経費 |

| 番号 | | 39 | | — | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|---|--|-------------|----------|--------------------------------|----------------|------------------|--|---------------|------------|--------|--|-------|--|
| 講座分析シート | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講座名 | | 生涯学習課市民講座 | | | 担当課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | |
| 事務事業名 | | 市民講座開催事業 | | | 開始年度 | H12以前 | | | | | | | | | |
| 事務事業の目的 | | 市民講座は、市民の方々の知識教養を深めるとともに、技能の習得や趣味を広げるにより、心豊かな人間形成や地域社会に還元する人づくりを目的に開催する。 | | | 分類 | 趣味・教養 | | | | | | | | | |
| 講座の内容 | | <p>実生活向けと歴史・音楽・文化の学習向けの講座を15講座88回実施した。【別紙参照】</p> <p>(講座名) 漆芸、元気はつらつ健康体操、花を楽しむ、男の家庭科「料理編」、身近な文化財に親しむ、女性の学級、薪能をより楽しむために、ふるさと小牧の食の文化～集まれぶきっちゃん～、洋楽ポップス、小牧の地元企業を知る、写真を上手に撮ろう、親子講座 家族で楽しむマジック、彩ふ織物アクセサリー、甲冑に学ぶ、ふるさと小牧の食の文化～正月料理～</p> <p>(講座選定) ・網羅的に各分野のものを入れる。最近は人気のある歴史関係を続けて開催しているが、なるべく同じ内容は避けるようにしている。大きい枠はある。 ・市民会館4階のこまなびサロン(校長OB、嘱託、臨時)で講座案をつくる。市民の企画による講座も始めた(H25)。サロン人件費2242千円。ときどき講師にもなる。 ・内容は他課・市民センター等と調整する。(文振、まなび、市民センター、コミュニティセンター) ・大学関係講座は各期2枠程度で、連携大学は講座の内容により異なる。 ・パソコン講座はH26から回数減らす予定である。</p> | | | | | | | | | | | | | |
| 講座等の選定方法 | | 課内で調整の上、選定 | | | | | | | | | | | | | |
| 開催場所 | | 市公民館 | | | 開催回数 | 88 (15講座) 回 | | | | | | | | | |
| 受講対象者 | | 市内在住・在学・在勤の18歳以上 | | | 受講者の平均年齢 | 63 歳 | | | | | | | | | |
| ①定員/回 | | 379 人 | | ②平均受講者数/回 | 355 人 | | ③年間総受講者数 | 355 人 | | | | | | | |
| ④H24決算額 | | ¥2,281,600 | | ⑤④のうち、直接経費 | ¥875,000 | | ④のうち、人件費(正規職員) | ¥106,600 | | ④のうち、人件費(その他) | ¥1,300,000 | | | | |
| 委託費 | | ¥0 | | 委託先関係団体 | | | | | | | | | | | |
| ⑥受益者負担 | | 受講料：150円×回数 別途教材費 | | | ⑦受益者負担総額 | | ¥310,000 | | | | | | | | |
| 2 チェック項目 | | 受講率(②÷①) | | 92% | | 受講人数(男・女) | | 118 | | 157 | | 受講年齢区分 | | 60歳以上 | |
| | | 居住分布(人数) | | 小牧 | | 味岡 | | 北里 | | 篠岡 | | 市外 | | | |
| | | 110 | | 59 | | 36 | | 65 | | 0 | | | | | |
| 競合・類似 | | 他市・民間 | | 有 | | 朝日文化センター、中日文化センターほか、民間の趣味・健康教室 | | | | | | | | | |
| | | 他部署 | | 無 | | — | | | | | | | | | |
| 受益者負担率(⑦÷⑤) ※直接経費のみ | | 35.4% | | 受益者負担率(⑦÷④) | | 13.6% | | 受講者一人にかかる経費(④÷③) | | ¥6,427 | | | | | |

課題と改善の方向性（個別講座）①

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|----------------------------|---|
| 4 | 消費生活特別講座 (生活交流課) | 平成24年度の受講率は45%と低く、かつ受講者の多くは消費生活改善推進員（15人）であり、一般市民の参加が非常に少ない。講座の主目的が消費生活改善推進員の研修であり、その場に、市民の参加も受け入れているということであればやむを得ないが、そうでないならば、講座の効果が不明であるため、講座内容、開催回数を減らすなどの検討が必要である。 |
| 5 | 金融知識普及・生活設計推進講座 (生活交流課) | 受講者は、消費生活改善推進員も多く受講しており、また、消費生活特別講座と一部内容・受講者層が重複しているため、改善が必要であるが、平成26年度から2回開催とすることから、まずは、その状況を確認の上、受講者が少ない場合は、さらなる改善を行う必要がある。 |
| 6,7 | 農業体験野菜栽培講座（春夏・秋冬） (農政課) | 本講座は、草刈や耕起等の実習を伴う講座であり、受講者アンケートでは農業に対する興味が深まったと回答が多く、受講者の満足度は高い。しかし、受講者の中には過去の受講者も多くおり、既に受講者が減少傾向にあることから、今後、受講者の減少や固定化が継続する場合は、講座内容の見直しや事業自体のあり方を検討する必要がある。 コスト面では、受講料の設定は他市との比較においては妥当であるが、受講者一人あたりのコストを見ると非常に高く、受益者負担の見直しの検討や現在の委託の契約内容・金額等の妥当性を常にチェックするなど、経費削減を図る必要がある。特に、講座修了者に斡旋するための農地の管理費を支払っている委託料については、見直しが必要である。 |
| 8,9 | かんたん野菜作り講座（春夏・秋冬） (農政課) | 農業体験講座の受講者に本講座を周知しているため、農業体験講座の受講者層と重複しているものの、受講率が160%とニーズが高い。 平成23年度に開始した講座であり、現在は受講率が高いが、今後、講義のテーマがマンネリ化したり、新規受講者が減少した場合は、見直し必要がある。 趣味の講座であり、また、講師代（委託料）もかかっていることから受益者負担の検討が必要がある。（生涯学習課の基準に当てはめた場合は、150円となる。） |
| 10 | 労働講座 (商工観光課) | 尾張県民事務所が尾張地区全体を対象としているため、市外受講者が多い。市として費用負担はあまりないが、なかなか受講者が集まらない状況であり、毎年、小牧市で実施してもらう必要性は低いと考えられるため、毎年、小牧市で開催することについて見直しの検討をする必要がある。 |

課題と改善の方向性（個別講座）②

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|----------------------|--|
| 11 | 求職者支援セミナー (商工観光課) | <p>講座内容について、好評なものは次年度も開催し、受講率が低いものは内容を変えて開催しているが、受講率は全般的に低く、受講者1人にかかる経費が高額となっている。また、受講者の就職率は2割程度であり、講座の効果が高いとはいえない。</p> <p>現在は、講座開始時と比較して、有効求人倍率が回復しており、本講座の必要性は低くなっているため、縮小又は廃止も含めて今後の方向性を検討する必要がある。</p> <p>(愛知県の有効求人倍率) 22年度：0.70 23年度：0.94 24年度：1.14 25年12月：1.49</p> <p>市の単独事業であるため市外受講者を受け入れる必要性は低く、市内受講者に限るべきである。 (市外の方も小牧市に勤めに来る可能性もあるとのことで受講者の対象にしているとのことであるが、その場合は、企業が負担すべきである。)</p> |
| 12 | 創業支援セミナー (商工観光課) | <p>これまでの受講者のうち、5人は創業しており、講座の成果があるといえる。</p> <p>今後は、商工会議所や関係団体と連携し、随時、より有効な内容に見直しをしていくとともに、受講者に対する受講後の支援についても検討していく必要がある。</p> |
| 13 | 家庭看護講座 (長寿介護課) | <p>「家庭介護者のためのハートフルセミナー」と、受講対象者や講座内容が一部重複しており、受講率も高いとはいえないため、より多くの人に受講していただくため、講座間で内容の調整を行う必要がある。</p> <p>現在、随意契約となっているが、他市町村の情報を収集するなどして、他に受託できる業者がないかや委託金額の妥当性などを確認していく必要がある。</p> |
| 14 | 家庭看護公開講座 (長寿介護課) | <p>「家庭介護者のためのハートフルセミナー」と、受講対象者や講座内容が一部重複しており、より多くの人に受講していただくため、講座間で内容の調整を行う必要がある。</p> <p>現在、随意契約となっているが、他市町村の情報を収集するなどして、他に受託できる業者がないかや委託金額の妥当性などを確認していく必要がある。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）③

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|------------------------------------|--|
| 15 | 家庭介護のための ハートフルケアセミナー (長寿介護課) | 毎回参加する人がほぼ固定され、新規受講者が少なく、「家庭看護講座」と、講座内容が一部重複していることから、より多くの方に受講していただくため、講座間で内容を調整し、多くの情報が提供できるよう工夫する必要がある。 |
| 16 | 認知症介護家族支援プログラム (長寿介護課) | 受講者同士の交流があり、受講者満足度は高いが、対象者は家を空けることが困難である方が多いことや平日開催であることなどから、例年受講率が低く、家庭看護講座の受講者と重複している。また、コスト面では定員が満たされたとしても受講者一人あたりの経費が非常に高いため、プログラムの内容の見直しや委託金額の妥当性の検証などを行い、経費削減を図る必要がある。 |
| 17 | 認知症サポーター養成講座 (長寿介護課) | 今後、認知症の方が増加していくと予想されるため、平成25年度から小学校のへの取組みを進めるなど、さらに多くの市民に対して認知症についての正しい知識の普及に努めていく必要がある。 |
| 18 | 市立寿学園 (長寿介護課) | 高齢化が進む中で参加者が減少傾向であることから、参加者増加に向けて事業の再構築を含めあり方を見直す必要がある。 また、魅力ある開催内容や運営方法、参加者の募集方法等を検討する必要がある。 さらに、周知方法や開園内容についても改善を図るよう理事とともに検討する必要がある。 生涯学習の要素が高いため、教育委員会と調整を図っていく必要がある。 |
| 19 | 元気アップ教室 (長寿介護課) | 受講対象者数に比べ、受講者が非常に少ない。また、受講者一人にかかる経費が高くなっており、経費以上に介護予防の効果があるか検証が必要である。 今後は、「お口いきいき教室」と統合するなど、対象者が来場しやすい仕組みを検討していく必要がある。 |
| 20 | お口いきいき教室 (長寿介護課) | 受講対象者数に比べ、受講者が非常に少ない。また、受講者一人にかかる経費が高くなっており、経費以上に介護予防の効果があるか検証が必要である。 今後は、「元気アップ教室」と統合するなど、対象者が来場しやすい仕組みを検討していく必要がある。 |

課題と改善の方向性（個別講座）④

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|-----------------------------|--|
| 21 | ちよっと・ステップ・アップ講座 (子育て支援課) | <p>本講座については、5回開催のうち趣味的な講座（「素敵なブリザードフラワー」「話題のベリーダンス」など）も含まれているが、受講料は材料費のみの徴収となっている。趣味的な講座については、生涯学習講座と明確な違いがないため、子育て中の親であるということだけで、受講料が無料であるのは公平性の面から問題があるため徴収の検討が必要である。</p> <p>また、生涯学習課（又は市民センター、まなび創造館）の市民講座等との重複がないように十分調整して実施する必要がある。</p> |
| 23 | めがせ若返り教室 (保健センター) | <p>受講者一人にかかる経費が非常に高いため、経費以上に医療費の削減効果等があるか検証が必要である。</p> <p>費用対効果を検証の上、講座の回数や定員、内容を見直しし、経費削減を図る必要がある。</p> |
| 24 | パパママ教室 (保健センター) | <p>受講率が高く、講座の内容については病院の教室と差別化を図っており、費用対効果は高い。ニーズが高い状況が続く場合は、できるだけ多くの受講者を受け入れられるように回数の増加などの検討が必要である。</p> |
| 25 | 離乳食教室(初期・後期) (保健センター) | <p>受講率が高く、講座の中で、育児相談を受けることができ、受講者からも好評を得ている。引き続き、講座の内容を充実し、質の高い支援を実施していく必要がある。</p> |
| 26 | にこにこむし歯予防教室 (保健センター) | <p>より効果的に多くの方に実施することができるよう、H26年度以降従来の教室のスタイルを見直している状況であるため、保健センターで検討されているとおり、より効果のある方法への見直しを進める必要がある。</p> |
| 28 | いきいき元気塾 (保健センター) | <p>本講座は高齢者が多く集まる老人福祉センターに出向いて開催しており、受講者数も多く、費用対効果は高いため、引き続き、実施が望まれる。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑤

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|--|---|
| 29 | 転ばぬ先の転倒予 防教室 (保険年金課・保健 センター) | <p>目的を目指す上において受講対象に年齢制限がなく、幅広い世代を対象としていることに意味はあるが、団体に属さない新規の参加者にも多く受講して頂くためには、さらなる開催場所や周知方法等の工夫が必要である。</p> <p>※今後、出前講座自体の内容の精査や再編を考えている為、それに準じて開催予定。特に、現在全額国保予算にて実施しているが、対象や事業実施の主旨に応じた内容・予算にしていくため、平成27年度以降に向けて検討を行っていく。</p> <p>事業実施の趣旨に合致するよう対象を絞って受講率が悪くなる場合は、実施回数を減らすなどの見直しが必要である。 医療費の削減につながっているかなど、何らかの効果測定・事業評価の実施を検討されたい。</p> |
| 30 | 脳いきいき教室 (保険年金課・保健 センター) | <p>団体に属さない新規の参加者にも多く受講していただくためには、更なる開催場所や周知方法等の工夫が必要である。</p> <p>※今後、出前講座自体の内容の精査や再編を考えている為、それに準じて開催予定。特に、現在全額国保予算にて実施しているが、対象や事業実施の主旨に応じた内容・予算にしていくため、平成27年度以降に向けて検討を行っていく。</p> <p>医療費の削減につながっているかなど、何らかの効果測定・事業評価の実施を検討されたい。</p> |
| 31 | 体しなやか膝・腰 すっきり教室 (保険年金課・保健 センター) | <p>団体に属さない新規の参加者にも多く受講していただくためには、更なる開催場所や周知方法等の工夫が必要である。</p> <p>※今後、出前講座自体の内容の精査や再編を考えているため、それに準じて開催予定。特に、現在全額国保予算にて実施しているが、対象や事業実施の主旨に応じた内容・予算にしていくため、平成27年度以降に向けて検討を行っていく。</p> <p>医療費の削減につながっているかなど、何らかの効果測定・事業評価の実施を検討されたい。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑥

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|-------------------------------|---|
| 32 | おくち元気はつらつ教室 (保険年金課・保健センター) | <p>これまでの経緯として、本事業は当初、健康教室として開催していたが、集客率アップに向けた検討を重ねた結果、現状の形態になっているが、受講率が他の健康教室に比べまだまだ低く、更なる集客率アップに向けた検討や効果測定が必要である。</p> <p>※今後、出前講座自体の内容の精査や再編を考えているため、それに準じて開催予定。特に、現在全額国保予算にて実施しているが、対象や事業実施の主旨に応じた内容・予算にしていくため、平成27年度以降に向けて検討を行っていく。</p> |
| 33 | 生き生き体操教室 (保険年金課・保健センター) | <p>大変人気がある講座であり、市費負担もなく、費用対効果が高いため、引き続き、国民健康保険団体連合会の抽選に応募していただきたい。</p> |
| 34 | 自然環境観察人養成講座 (環境対策課) | <p>本市にとって自然環境観察人が必要性が高いということであれば、本講座の継続はやむを得ないが、受講率が非常に低いほか、職員負担が大きく、人件費が高いため、受講者一人にかかる経費が他の講座に比べて圧倒的に高くなっている。</p> <p>そのため、講座の運営手法を抜本的に見直しし、職員負担を減らすなど、経費削減を図る必要がある。</p> |
| 35 | 市民環境講座 (環境対策課) | <p>受講対象者は市民となっているが、実質は、既に活躍している方のレベルアップを目的としているため、必然的に受講対象者が少ない。</p> <p>これまで受講者が自然観察人のボランティアになるなど、一定の効果はあるものの、受講率が低く、受講者一人あたりにかかる経費が高いため、講座の対象者・内容・開催回数などを抜本的に見直しし、受講者の増加及び経費削減を図る必要がある。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑦

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----------|------------------------------|---|
| 39 | 生涯学習課市民講座 (生涯学習課) | <p>受講対象を18歳以上としているが、受講者の平均年齢は60歳以上と高齢者の割合が多いため、さらなる工夫が必要である。</p> <p>生涯学習課、各市民センター、まなび創造館において、各担当職員が講座を企画立案しているが、企画立案業務の統合（例：こまなびサロン）や一部の企画を共有化するなど、部内全体として職員負担の軽減及び人件費等の削減を図る必要がある。</p> <p>各種養成講座の開催を行うなど、受講者が講座を受講して終わるのではなく、ボランティアや地域のリーダーとなるよう、生涯学習の輪をつなげるよう、取り組む必要がある。</p> <p>公民館活動として実施する講座事業については、各公民館がそれぞれ企画、実施をしているため、実施回数や内容にばらつきがあり、市全体としての計画性や公平性が考慮されていない。このため、生涯学習課の統括の下、全市的な各年度の方針や計画を作成し、事業を推進する必要がある。</p> |
| 40. 41 | ゆうゆう学級1回生・ 2回生 (生涯学習課) | <p>受講率も高く、内容も好評であるほか、受講後、サークルの結成に発展したり、市公民館の利用者になる人もいることなどから、一定の効果があるといえる。</p> <p>しかし、担当職員の人件費が高い結果、受講者一人にかかる経費を上げている。そのため、現在は、生涯学習課及び各市民センターにおいて、各担当職員が講座を企画立案しているが、企画立案業務の統合や一部の企画を共有化するなど、部内全体として職員負担の軽減及び人件費等の削減を図る必要がある。</p> <p>また、市公民館のゆうゆう学級のみ各市民センターとは異なり、受講期間を2年とし、つつじ学級を開催していないため、より効率的・効果的な手法に統一することを検討する必要がある。（高齢者の増加が進む中、現在でも定員を超える応募があるのであれば、受講期間を1年とし、クラスを2クラスにすることなどの検討が必要である。）</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑧

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|--|---|
| 42 | 親子でじゃがいもづくり (生涯学習課) | <p>わくわく体験広場での事業は、地元区（大山区）の協力のもとで実施ができています。将来的に、協力が得られなくなった場合は、事業縮小などの見直しをする必要があります。</p> <p>複数講座を一括して委託しているが、講座ごとの経費が明確でないため、講座ごとの委託内容・金額等をチェックするなどして、費用対効果を検証する必要があります。</p> <p>本講座は、こどもの自然体験を目的としているが、じゃがいもや米作り、さつまいもほりは、市内の小学校や保育園でも実施しているところがあるため、小学校や保育園での実施状況を把握し、事業実施の必要性や効果などを再確認する必要があります。</p> |
| 43 | わくわく魚とり (生涯学習課) | <p>わくわく体験広場での事業は、地元区（大山区）の協力のもとで実施ができています。将来的に、協力が得られなくなった場合は、事業縮小などの見直しをする必要があります。</p> <p>複数講座を一括して委託しているが、講座ごとの経費が明確でないため、講座ごとの委託内容・金額等をチェックするなどして、費用対効果を検証する必要があります。</p> |
| 44 | もち米づくりにチャレンジ (生涯学習課) | <p>わくわく体験広場での事業は、地元区（大山区）の協力のもとで実施ができています。将来的に、協力が得られなくなった場合は、事業縮小などの見直しをする必要があります。</p> <p>複数講座を一括して委託しているが、講座ごとの経費が明確でないため、講座ごとの委託内容・金額等をチェックするなどして、費用対効果を検証する必要があります。</p> <p>本講座は、こどもの自然体験を目的としているが、じゃがいもや米作り、さつまいもほりは、市内の小学校や保育園でも実施しているところがあるため、小学校や保育園での実施状況を把握し、事業実施の必要性や効果などを再確認する必要があります。</p> |
| 45 | 自然体験学習講座 「兒の森で自然をエンジョイ！」 (生涯学習課) | <p>複数講座を一括して委託しているが、講座ごとの経費が明確でないため、講座ごとの委託内容・金額等をチェックするなどして、費用対効果を検証する必要があります。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑨

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|--------------------------------|---|
| 46 | 親子さつまいもほり (生涯学習課) | <p>わくわく体験広場での事業は、地元区（大山区）の協力のもとで実施ができてきている事業であるため、将来的に、協力が得られなくなった場合は、事業縮小などの見直しをする必要がある。</p> <p>複数講座を一括して委託しているが、講座ごとの経費が把握されておらず、講座ごとの費用対効果が不明であることなどから、現在の委託の契約内容・金額等の妥当性を常にチェックするなど、経費削減を図る必要がある。</p> <p>こどもの自然体験を目的としているが、じゃがいもや米作り、さつまいもほりは、市内の小学校や保育園でも実施しているところがあるため、小学校や保育園での実施状況を把握し、事業実施の必要性や期待できる効果などを再確認する必要がある。</p> |
| 47 | Jrセミナー「兒の森 里山体験」 (生涯学習課) | <p>複数講座を一括して委託しているが、講座ごとの経費が把握されておらず、講座ごとの費用対効果が不明であることなどから、現在の委託の契約内容・金額等の妥当性を常にチェックするなど、経費削減を図る必要がある。</p> |
| 48 | Jrセミナー (生涯学習課) | <p>受講率が高く、人気がある講座であるが、コスト面では人件費が高いことが受講者一人にかかる経費を大きくしている要因となっている。そのため、職員負担を軽減するため、他市の事例や公共施設を管理運営している指定管理者に講座の開催を担ってもらう方法などを調査研究する必要がある。</p> <p>こまなびフェスティバルで活動の成果発表を行っている講座が一部あるが、そのために活動量が増え、受講者が負担に感じているとのことであることから、事業の目的に適合した学習量となるよう講座間の目ぞろえが必要がある。</p> |
| 50 | こまきみらい塾各種 講座 (生涯学習課) | <p>こまきみらい塾については、男女共同参画社会の実現をめざして開催されているが、多くの講座内容が、他課の講座と大きな違いはないため、男女共同参画を主とした事業からの転換や他課の類似事業との統廃合を含め、事業のあり方を抜本的に見直す必要がある。</p> <p>市公民館で開催されていた市民大学については、既に廃止されていることから、男女共同参画に特化した市民大学の必要性について再検証する必要がある。</p> <p>受講生の平均年齢が65歳で高いことから、人材育成を目的としているという点で幅広い年齢層が参加できるプログラムを構成するなどの見直しが必要がある。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑩

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|-----------------------------------|--|
| 51 | まなび創造館市民講座 (まなび創造館) | <p>受講者がサークルを結成し、施設の利活用促進に効果があるといえるが、講座の内容や受講対象によっては、受講者が集まらないときがある。</p> <p>コスト面では、職員負担が大きく、受講者一人にかかる経費も高く、費用対効果が低い。</p> <p>そのため、生涯学習課、各市民センター、まなび創造館において、各担当職員が講座を企画立案しているが、企画立案業務の統合や一部の企画を共有化するなど、部内全体として職員負担の軽減及び人件費等の削減を図る必要がある。</p> |
| 52 | 就労支援パソコン講座 エクセル編・ワード編 (まなび創造館) | <p>本講座は就労支援が目的であり、経済的に困難な人を対象としているため、民間のパソコン教室とは競合しないが、受講者のその後の就労率などの調査結果を基に、本講座の必要性や効果を確認する必要がある。成果がない場合は抜本的な見直しが必要である。</p> <p>また、現在は、講座開始時と比較して、有効求人倍率が回復しているため、受講率の推移を見極めつつ、縮小又は廃止も含めて今後の方向性を検討する必要がある。</p> |
| 52 | パソコンで広報誌を作ってみよう (まなび創造館) | <p>パソコン講座については、民間で広く実施されており、市が実施する必要性が低い。本講座は、女性の社会参加や自立を支援するという目的で差別化を図り、実施している講座である。しかし、受講者が子ども会活動・PTA活動・地域活動等で広報誌・PRチラシを作成したかどうかなどの目的の達成状況が確認がされていないため、追跡調査を行い、本講座の必要性や効果を確認する必要がある。成果がない場合は抜本的な見直しが必要である。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑪

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|----------------------------|--|
| 53 | 味岡市民センター市民講座 (味岡市民センター) | <p>受講対象年齢は幅広いが、受講者の平均年齢は60歳以上と高齢者の割合が多く、男性の受講者が少ないため、さらなる工夫が必要である。</p> <p>生涯学習課、各市民センター、まなび創造館において、各担当職員が講座を企画立案しているが、企画立案業務の統合（例：こまなびサロン）や一部の企画を共有化するなど、部内全体として職員負担の軽減及び人件費等の削減を図る必要がある。</p> <p>公民館活動として実施する講座事業については、各公民館がそれぞれ企画、実施をしているため、実施回数や内容にばらつきがあり、市全体としての計画性や公平性が考慮されていない。このため、生涯学習課の統括の下、全市的な各年度の方針や計画を作成し、事業を推進する必要がある。</p> <p>健康教室（運動機能や口腔機能の改善を図る内容）を盛り込む場合は、内容や講師について保健センターと相談・調整し、重複がないように配慮する必要がある。</p> <p>受講者の固定化傾向があるため、地域住民へのPRを強化するとともに、過去の受講者データを整備し、初回者が優先となるように抽選方法を見直す必要がある。</p> |
| 54 | 味岡ゆうゆう学級 (味岡市民センター) | <p>受講率も高く、内容も好評であるほか、受講後、サークルなどの結成に発展したり、味岡市民センターの利用者になる人もいることから、一定の効果があるといえる。</p> <p>しかし、担当職員の人件費が高い結果、受講者一人にかかる経費を上げている。そのため、生涯学習課及び各市民センターで、それぞれ担当の職員が講座を企画立案するのではなく、一部の企画を共通化するなど、部内全体として職員負担の軽減を図る必要がある。</p> |
| 55 | 味岡つつじ学級 (味岡市民センター) | <p>受講率も高く、内容も好評であるほか、受講後、サークルなどの結成に発展したり、味岡市民センターの利用者になる人もいることから、一定の効果があるといえる。</p> <p>しかし、担当職員の人件費が高い結果、受講者一人にかかる経費を上げている。そのため、各市民センターで、それぞれ担当の職員が講座を企画立案するのではなく、一部の企画を共通化するなど、部内全体として職員負担の軽減を図る必要がある。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑫

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|----------------------------|--|
| 56 | 東部ゆうゆう学級 (東部市民センター) | <p>受講率も高く、内容も好評であるほか、受講後、サークルなどの結成に発展したり、東部市民センターの利用者になる人もいることから、一定の効果があるといえる。</p> <p>しかし、担当職員の人件費が高い結果、受講者一人にかかる経費を上げている。そのため、生涯学習課及び各市民センターで、それぞれ担当の職員が講座を企画立案するのではなく、一部の企画を共通化するなど、部内全体として職員負担の軽減を図る必要がある。</p> |
| 57 | 東部つつじ学級 (東部市民センター) | <p>受講率も高く、内容も好評であるほか、受講後、サークルなどの結成に発展したり、東部市民センターの利用者になる人もいることから、一定の効果があるといえる。</p> <p>しかし、担当職員の人件費が高い結果、受講者一人にかかる経費を上げている。そのため、各市民センターで、それぞれ担当の職員が講座を企画立案するのではなく、一部の企画を共通化するなど、部内全体として職員負担の軽減を図る必要がある。</p> |
| 58 | 東部市民センター市民講座 (東部市民センター) | <p>受講対象年齢は幅広いが、受講者の平均年齢は50歳代と若い受講者と男性が少ないため、さらなる工夫が必要である。</p> <p>生涯学習課、各市民センター、まなび創造館において、各担当職員が講座を企画立案しているが、企画立案業務の統合（例：こまなびサロン）や一部の企画を共有化するなど、部内全体として職員負担の軽減及び人件費等の削減を図る必要がある。</p> <p>公民館活動として実施する講座事業については、各公民館がそれぞれ企画、実施をしているため、実施回数や内容にばらつきがあり、市全体としての計画性や公平性が考慮されていない。このため、生涯学習課の統括の下、全市的な各年度の方針や計画を作成し、事業を推進する必要がある。（東部市民センターは他の市民センターでは実施していない短期講座を実施しているなど、全体の講座数が多い。）</p> <p>健康教室（運動機能や口腔機能の改善を図る内容）を盛り込む場合は、内容や講師について保健センターと相談・調整し、重複がないように配慮する必要がある。</p> <p>受講者の固定化傾向があるため、地域住民へのPRを強化する必要がある。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑬

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|----------------------------|---|
| 59 | 北里市民センター市民講座 (北里市民センター) | <p>受講対象年齢は幅広いが、受講者の平均年齢は60歳代と若い受講者と男性が少ないため、さらなる工夫が必要である。</p> <p>生涯学習課、各市民センター、まなび創造館において、各担当職員が講座を企画立案しているが、企画立案業務の統合（例：こまなびサロン）や一部の企画を共有化するなど、部内全体として職員負担の軽減及び人件費等の削減を図る必要がある。</p> <p>公民館活動として実施する講座事業については、各公民館がそれぞれ企画、実施をしているため、実施回数や内容にばらつきがあり、市全体としての計画性や公平性が考慮されていない。このため、生涯学習課の統括の下、全市的な各年度の方針や計画を作成し、事業を推進する必要がある。</p> <p>健康教室（運動機能や口腔機能の改善を図る内容）を盛り込む場合は、内容や講師について保健センターと相談・調整し、重複がないように配慮する必要がある。</p> <p>受講者の固定化傾向があるため、地域住民へのPRを強化するとともに、過去の受講者データを整備し、初回者が優先となるように抽選方法を見直す必要がある。</p> |
| 60 | ゆうゆう・つつじ合同学級 (北里市民センター) | <p>受講率は、他の市民センターに比べて低いため、受講率向上の取組みが必要である。</p> <p>また、担当職員の人件費が高い結果、受講者一人にかかる経費を上げている。そのため、生涯学習課及び各市民センターで、それぞれ担当の職員が講座を企画立案するのではなく、一部の企画を共通化するなど、部内全体として職員負担の軽減を図る必要がある。</p> |
| 61 | 美術鑑賞講座 (文化振興課) | <p>受講者のうち、約20%が過去に受講歴があり、受講者が固定化しているほか、受講率が低く、美術文化の振興を図るという目的への寄与は低い。</p> <p>そのため、今後も受講者の重複や低調な受講率が続く場合は、他の文化・生涯学習講座への統合又は廃止も含めて抜本的な見直しを検討する必要がある。</p> |

課題と改善の方向性（個別講座）⑭

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|----------------------|--|
| 62 | 音楽鑑賞講座 (文化振興課) | 本講座は、受講率が約53%と低く、かつ、受講者のうち4分の1以上(145人)が継続受講者であり、受講者が固定化している。平成26年度から開催回数を3回に見直すことになっているため、見直し後の受講者の動向を確認の上、低調な受講率や受講者の固定化が見られる場合は、他の場所での開催など新規受講者の増加に対する取組みの検討が必要である。(味岡市民センターの設備でなければ実施できないほど専門性が高いものから、どこの市民センターでもできる初心者向けの講座への見直しなど) |
| 63 | クラシック鑑賞講座 (文化振興課) | 委託料が高額であることから、受講者一人にかかる経費が高くなっている。費用対効果を確認の上、本講座の必要性を検証する必要がある。 本講座を継続する場合は、委託内容や受益者負担の見直しの検討が必要である。 会場が東部市民センターに固定化されているため、受講者も一部固定化している。また、類似講座の音楽鑑賞講座と受講者が重複していないかチェックする必要がある。市民の音楽への関心を高めるためには、多くの新規受講者の獲得が必要であるため、重複度や受講率などの推移をもとに、開催場所や講義内容などの見直しを行う必要がある。 |
| 64 | 連続歴史講座 (文化振興課) | 本講座は産学官の役割も担っているが、受講者名簿を市で保管しておらず、受講者の傾向(平均年齢、重複度)については不明であるため、受講後のアンケートを利用するなどして受講者の傾向を分析し、改善につなげる必要がある。 趣味的な講座であり、生涯学習講座と明確な違いがなく、講師代(委託料)もかかっているため、公平性の観点から受講料徴収の検討が必要である。 |
| 65 | 古文書基礎講座 (文化振興課) | 本講座は産学官の役割も担っており、受講率も高いが、受講者名簿を市で保管しておらず、受講者の傾向(平均年齢、重複度)については不明であるため、受講後のアンケートを利用するなどして受講者の傾向を分析し、改善につなげる必要がある。 趣味的な講座であり、生涯学習講座と明確な違いがなく、講師代(委託料)もかかっているため、公平性の観点から受講料徴収の検討が必要である。 文化財啓発事業として古文書に特化した講座が複数あることから、受講者の重複状況を確認の上、整理統合の検討が必要である。 |

課題と改善の方向性（個別講座）⑮

| No. | 講座の名称 (課名) | 課題及び改善の方向性 |
|-----|--------------------------------|--|
| 66 | 古文書入門講座 (文化振興課) | <p>本講座は産学官の役割も担っており、受講率も高いが、受講者名簿を市で保管しておらず、受講者の傾向（平均年齢、重複度）については不明であるため、受講後のアンケートを利用するなどして受講者の傾向を分析し、改善につなげる必要がある。</p> <p>趣味的な講座であり、生涯学習講座と明確な違いがなく、講師代（委託料）もかかっているため、公平性の観点から受講料徴収の検討が必要である。</p> <p>文化財啓発事業として古文書に特化した講座が複数あることから、受講者の重複状況を確認の上、整理統合の検討が必要である。</p> |
| 67 | 古文書講演会 (文化振興課) | <p>本講座は産学官連携の役割も担っているものの、受講率も低いため、今後も受講率の低迷が続く場合は、古文書基礎講座又は古文書入門講座との統合など、抜本的な見直しを行う必要がある。</p> <p>文化財啓発事業として古文書に特化した講座が複数あることから、受講者の重複状況を確認の上、整理統合の検討が必要である。</p> |
| 69 | 公認スポーツ指導員 養成講座 (スポーツ推進課) | <p>受講者一人にかかる経費は高いが、公認スポーツ指導員の養成が目的であり、受講者が指導員として活動していただくための投資と判断できれば、継続は問題ないと判断する。</p> <p>このため、受講者の活動状況を常に把握し、本講座および市独自のスポーツ指導員制度の有効性を確認していく必要がある。</p> |
| 71 | 親子ふれあい体操 教室 (スポーツ推進課) | <p>講座の内容が保健センターや児童館、まなび創造館で実施している市民講座等との重複がないように十分調整して実施する必要がある。</p> |
| 72 | シルバースポーツ大 学 (スポーツ推進課) | <p>本講座から受講者により多くのサークルが生まれ、パークアリーナの利用促進につながっている。一方で、受講者一人にかかる経費が高く、職員負担の軽減を図るなど、より効率的な運営方法を検討する必要がある。</p> <p>講座の内容が保健センターやまなび創造館で実施している市民講座等との重複がないように十分調整して実施する必要がある。</p> |

V 経営分析結果の活用

経営分析結果の活用

- 講座全般の各課題に対する取組みを進めるため、今回の経営分析の結果をもとに、平成26年度に今後の取組方針を策定し、予算や事業計画への反映に努める。
- 個別講座については、改善の方向性を踏まえ、担当課が取組みを行う。

25年度

分析・分析結果のとりまとめ

26年度

関係課に改善の方向性を通知

今後の取組方針の策定

分析結果と
あわせて
公表

すぐに取り
組める
改善に対
する取組
み

取組方針に基
づく取組み
(予算を要し
ないもの)

各課による個別講
座の改善策の検討

H27予算反映

プロジェクトチ
ームによる全庁的な
指針等の検討

取組方針に基づく
取組み(予算を要
するもの)

27年度
～